

2009年度

(平成21年度)

海外技術研修員等 研修報告書



浦富海岸

鳥 取 県

はじめに

海外技術研修員受入事業は、将来を担う海外の青年を「海外技術研修員」等として招き、必要な技術を習得していただくものです。母国の発展に貢献する人材を養成するとともに、県民との友好親善を図ることを目的としています。

鳥取県では1987年度、友好関係にある中国河北省から「農業研修生」「緑化研修生」として5名を受け入れて以来、2009年度までにブラジルから32名、中国から121名、モンゴルから19名、パラグアイから1名の合計173名を受け入れてまいりました。

このほかにも「韓国江原道行政実務研修生」「外務省長期青年招聘事業研修員」「国際協力機構（JICA）自治体連携研修員」として来県した研修員も5カ国24名に上ります。また、ブラジルからの県費留学生も2009年度まででのべ57名となり、自治体レベルでの国際協力は着実に進展しております。うち本年度は海外技術研修員としてブラジルから1名、モンゴルから1名の合計2名が、2か月から8か月の間、県内の関係機関で研修を受けました。

海外の地方自治体職員が日本の地方行政のノウハウなどを習得するための自治体職員協力交流事業では、1996年度から2009年度までにベトナム、韓国、マレーシア、中国から合計23名を受け入れております。うち本年度は、中国から1名が来県され、主に鳥取県庁において研修を行いました。

また、韓国江原道庁から行政実務研修生1名が来県され、鳥取県庁において研修を行いました。

これら研修員の皆さんは、言葉や気候・生活習慣の違いという壁もありましたが、研修機関の熱心な御指導もあり、技術・知識の習得に励むことができました。また、研修期間を通じての日本語学習のほか、県内および国内各地を訪れ、日本文化への理解を深めるとともに、県民との交流に努められました。

帰国後は、研修や勉学の成果を十分に活かし、母国の発展に貢献するとともに、わが国との友好の架け橋となってくれと期待しております。

この報告書は、研修員が学んだ内容や日本や鳥取県の印象などをまとめたものです。研修員の皆さんの意気込みと成果を読み取っていただければ幸いです。

最後になりましたが、事業の実施にあたり御協力いただきました関係機関の皆様に、厚くお礼申し上げます。

2010年3月

鳥取県文化観光局交流推進課長 小牧 兼太郎

目 次

2009年度海外技術研修員等一覧	2
海外技術研修員	3
アレシャンドレ アラキ(ブラジル)	4
ミヤグマル ダシDRAM(モンゴル中央県)	17
自治体職員協力交流研修員	21
周婧怡(ジョウ ジンイ)(中国吉林省)	22
韓国江原道行政実務研修生	28
李美静(イ ミジョン)(韓国江原道)	29
県費留学生	40
カチア ルリ モリオカ(ブラジル)	41
短期海外研修員	54
カトウ ベロニカ アケミ(ブラジル)	55
名 簿	60
海外技術研修員	61
中国河北省技術研修生	63
中国河北省農林漁業研究者	63
中国河北省農業研修生・緑化研修生	64
中国黒竜江省農業研修生	66
韓国江原道行政実務研修生	66
自治体職員協力交流研修員	67
外務省長期青年招聘事業研修員	68
国際協力機構(JICA)自治体連携研修員	68
ブラジル県費留学生	68

2009年度海外技術研修員等一覧

1. 海外技術研修員（2名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
ブラジル	アレシャンドレ アラキ	男	28	放送全般	(株)中海テレビ	2009.7 ~2010.3
モンゴル (中央県)	ミヤグマル ダシドラム	女	33	農業	県立農業大学校	2009.9 ~2009.11

2. 自治体職員協力交流事業（1名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
中国 (吉林省)	周婧怡 (ジョウ ジンイ)	女	24	商工行政	鳥取県商工労働部	2009.5 ~2010.3

3. 鳥取県江原道相互派遣職員（1名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
韓国 (江原道)	李美静 (イ ミジョン)	女	29	体育・青少年分野	鳥取県教育委員会	2009.4 ~2010.3

4. 県費留学生（1名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研究先	期間
ブラジル	カチア ルリ モリオカ	女	23	生産システム・品質管理	鳥取大学工学部	2009.4 ~2010.3

5. 短期海外研修員（1名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研究先	期間
ブラジル	カトウ ベロニカ アケミ	女	39	歯科治療全般	鳥取赤十字病院	2010.1 ~2010.3

海外技術研修員
(ブラジル、モンゴル中央県)

1 研修員プロフィール



氏 名 アレシャンドレ アラキ
 年 齢 28 歳
 国 籍 ブラジル
 出 身 サンパウロ州、オザスコ市
 研修分野 メディア

2 研修機関の概要

機関名 株式会社中海テレビ放送 鳥取県米子市河崎 610
 代表者名 株式会社中海テレビ放送代表取締役社長 秦野 一憲
 指導者 株式会社中海テレビ放送取締役編集部部长 宮本 收
 県報道制作部長

3 研修経過

月 日	研修内容
2009.7.22	来日（成田空港）
7.23	来県（米子空港）
7.27~8/1	日本語学習（鳥取国際交流財団 米子事務所）
8. 3	日本語研修開始・開講式（しまね国際研修館：鳥根県松江市）
8. 7	鳥取市主催歓迎会に出席（鳥取市）
8. 8	「第 45 回鳥取しゃんしゃん祭」を見学（鳥取市）
8. 9	ブラジル交流団体連絡協議会主催歓迎会に出席（鳥取市）
8.14	先祖の墓参り（日南町上萩山）
8.28	日本語学習発表会・閉講式（しまね国際研修館：鳥根県松江市） 株式会社中海テレビ放送へあいさつ
8.31	専門研修開始（株式会社中海テレビ放送）（～2010.2/26）
9. 5	国際交流財団主催「ハワイの集い」にボランティアとして参加 （米子市）
9. 7	県庁表敬訪問（藤井喜臣副知事、小谷茂県議会議長） 鳥取県文化観光局交流推進課へあいさつ
9.23	プロ野球ヤクルト・カープ戦 観戦（広島）

9.29	株式会社中海テレビ放送 歓迎会
10.31~11.1	株式会社中海テレビ放送 「20周年 50時間テレビ」の取材 (米子コンベンションセンター)
11.29	「ハローほうき国際交流フェスティバル」に参加 (米子市)
12.3~7	国内旅行「親戚宅訪問」 (埼玉・東京)
12.21~26 2010.1.6~13	専門研修 (株式会社 山陰ビデオシステム)
12.23	国際交流財団主催「世界のクリスマス」にボランティアとして参加 (米子市)
12.31	株式会社中海テレビ放送 「ゆく年くる年」の中継 (大山寺)
1.30	株式会社中海テレビ放送 新年会参加
2.20	国際交流財団主催「日本のマナー」にボランティアとして参加
2.25	株式会社中海テレビ放送 送別会
3.7	ブラジル友好協会・送別会 (鳥取市)
3.10	研修修了式・送別会 (鳥取市)
3.12	離県・帰国 (鳥取空港・成田空港)

研修報告

(1) はじめに

日本に来るのは2回目です。大学を卒業して、もう一度日本に行ってみたい、日本で好きな仕事をやってみたいという気持ちがありました。今回は鳥取県(両親の祖父の故郷)に来ることに決まって、とても嬉しかったです。

日本に住むのは初めてではないので、買い物や遊びや生活では困ることがありませんでした。研修で鳥取県西部地域のいろいろな所に行き多くの人と会うことで、自然の美しさや地域の人々の優しさを感じました。最初の不安は消えて、楽しく過ごすことができました。

(2) 松江での日本語研修

日本語研修は松江市のしまね国際研修館で2009年8月からおよそ1ヶ月、月曜日か

ら金曜日、毎日6時間受けました。同時に入った研修生はいなかったなので、クラスは先生と一対一で勉強しました。授業が終わってから買い物に行ったり、晩ご飯を作ったりしました。その後、テレビを見ながら宿題をしました。

研修館に入ってから2週間後、アメリカや南アフリカや中国などいろいろな国の方が日本語の勉強に来ました。急に賑やかになり、すぐ仲良くなって楽しかったです。

先生達は優しく、いつも笑顔で教えてくれました。日本語だけでなく、日本の文化やいろいろな事も教えていただき、また誕生日ケーキを作って下さり、大変有難く思っています。



日本語学習卒業式

(3) 専門研修

ブラジルでは大学生時代から、友達とショートムービーを作ったり、いろいろなイベントの撮影をしたりしていました。私はカメラマンと編集担当なので、技術やきれいな映像の撮り方をもっと学びたいと思いました。今までテレビ局のカメラマンは経験がなかったので、最初は不安がありましたがすぐ慣れ、研修先の先輩達からアドバイスをいただいて、一人でカメラを回すことになりました。

株式会社中海テレビ放送

株式会社中海テレビ放送は鳥取県西部地域のケーブルテレビとして地域の政治や文

化など、いろいろな情報番組を作っている会社です。現在中海テレビ放送は自主制作が6チャンネルあります。



3CH - 生活関連情報を提供

エリア内各市町村の高度な情報化ニーズに応えるため細かくギャザリングして得た生活関連情報を提供し、安心安全な暮らしに役立つ専用チャンネルを設けています。

アナログ4CH / デジタル112CH - 中海4チャンネル



パルディア、みんなで歌おう子どもの歌、そぞろ歩きなどで、店や会社の紹介をしたり、いきいきとしたまちづくりを目指し地域で活躍されているボランティア・NPO団体を紹介します。

また、米子市・境港市・西伯郡内選出の県議会議員が地域問題や、住みやすい地域にするための話し合いをしたり、質問に応えたりします。

アナログ5CH / デジタル111CH - コムコムスタジオ



毎日午後 6:00～(30 分)リピート放送で議会や交通安全などを市民の人たちに伝えます。作品展やイベントも紹介します。また、特集を作ったり、WE ARE ガイナール、時の顔話題の人の特別番組を作っています。

アナログ14CH - P・A・C (パブリック・アクセス・チャンネル)

まるごと市民のみなさんのチャンネルです！地元の文化団体や青年団体など 34 団体の P・A・C 番組運営協議会を中心として、公民館や学校、個人の投稿作品を放送しています。

パブリック・アクセス・チャンネルは、市民が中海テレビ放送のチャンネルの 1 つを利用し、主体性をもって情報を発信していくものです。

アナログ15CH - 生活情報チャンネル

当日のニュースや話題、キャンペーンや今週の CD ランキングなどの情報を伝えます。

アナログ24CH - 県民チャンネル

県議会中継や、県内 CATV 局の番組を放送します。

(A) 報道

中海テレビのニュースを作っています。現在は 11 人全員がビデオジャーナリストとして、撮影、原稿、ナレーション、編集、全部を一人で行い、ニュースのネタを作ります。そのあと、デスクがチェックをして、全てのテープを集め、午後 6 時からニュースの生放送を流します。ニュースの時もカメラや、スイッチや、ミックスなど、全員役割が決まっています。

私はほとんど毎日一人の社員について撮影に行きました。最初の 1 週間はカメラアシ

スタントとして機材を持ち、先輩達を手伝いました。2週間目は、もう一つのカメラを持って自分で撮影をし、会社の先輩に見せながらアドバイスを受けました。

3週間目から撮影に行く前に、先輩から取材の内容、撮らなければならないことの指示をもらって、一人でカメラをまわしましたが、日本の文化はまだ分からないことがたくさんあり、撮影の失敗もありました。原稿は書けないので、先輩が書かれるのを待ち、その間にニュースのスーパーを作っていました。分からない漢字が多くて苦労しましたが、辞書を使えばできました。その後、先輩から原稿とナレーションを受け取って編集をしました。

編集が終わって、スタジオの準備をしました。



研修先の先輩からアドバイスを受け編集作業をしています。

(B)取材

湊山公園の桜植樹 (2009.11.9)

日本の文化や伝統などはまだ分からないことがたくさんあり、ニュースの撮影経験も少なかったので、失敗もありました。

湊山公園で桜植樹が行われるときに撮影に行きました。カメラを一人でまわし、初めて植樹に参加しましたが、取材の流れもわからなかったので、うまく撮影が出来ませんでした。

先輩たちはすごく優しく、笑顔で「今日は20点、今度リベンジして」と言ってくれました。悔しかったですが、安心しました。

今日のQuestion!

今日のQuestion!はコムコムスタジオの市民の人達に、あるテーマについて質問をするコーナーです。

「夏の思い出」、「読書」、「裁判員制度」など、いろいろなテーマについて町を歩きながら一般の人に質問をしましたが、2時間で50人ぐらいの人にインタビューをしました。インタビューした人達はすごく恥ずかしがりカメラから逃げる人が多かったので、大変な企画でしたが、多くの人に会えて楽しかったです。



一人でカメラをまわす

作品展の集材



(C) 20周年50時間テレビ

2009年に株式会社中海テレビ放送が創立20周年になりました。その記念に10月30日～11月1日まで50時間生放送の番組を作りました。

会場は米子コンベンションセンターで、平井知事、市町村長、まちづくりリーダー達が参加され、この地域の20年後について番組を作りました。その他、地元アーティストや、歌手、バンドなどのライブコンサートが行われました。



20周年 50時間テレビ生放送 (情報プラザ：米子コンベンションセンター)

(D) ゆく年くる年

毎年中海テレビが年越しの生中継の番組を作ります。今年はロケ四カ所から中継しましたが、私は大山寺の中継に参加しました。

その日1mぐらいの雪と気温-8の中で行われました。私は中継でハンドライトを担当することになりました。午後2時ごろ会社を出発して、1回大山寺まで登ってリハーサルをして、午後10時もう1回登って中継をしました。終わってから機材を集めて下りましたが、雪が多くて駐車場に着くまで1時間以上かかりました。すごく大変でしたが、良い経験でした。



大山寺の中継の準備

(E) 制作

中海テレビで、制作の研修もしました。制作でPRを作るそれぞれのステップを学びました。打合せに行ったり、撮影を手伝ったり、編集を見たりしました。打合せのあとは、自分の考えでPRの台本、絵コンテを作りました。

SVS(山陰ビデオシステム)

SVSは総合映像プロダクションで、テレビ番組、CM制作、イベントやスポーツ中継など30年間山陰でいろいろな作品を作っています。

SVSは中海テレビや日本海テレビの番組のサポートもしています。

私は2週間そこで研修をしました。番組やCMなどの、打合せ、構成、台本、最初から出来上がった作品までの、全部のステップを学び、自分のCMも作りました。



(A) パルディア

パルディアは中海テレビのバラエティ - 番組です。店や、地域に住む外国人など、いろいろなことを紹介します。撮影、編集のほとんどを山陰ビデオシステムがします。私はパルディアのロケに行ったり、カメラアシスタントをしたりしました。

(B) スライス

山陰ビデオシステムは日本海テレビの撮影もします。

私は2回スライスのロケに行きましたが、1回目は松江市のたい焼き屋の紹介の撮影で、機材を持ったり、ライトをしました。ニュースと違うので、いい経験でした。たい焼きもいただいて美味しかったです。

(C) 自分のCM

山陰ビデオシステムの研修が終わる前に自分のCMを作ることになりました。テーマは「ブラジルに流れる山陰ビデオシステムのCM」で構成、台本、絵コンテ、撮影と編集を全て自分でやりました。自分が撮影した映像とSVSのCMを使って、ポルトガル語のナレーションと合わせて1分半のCMが出来上がりました。

(4) ブラジルのケーブルテレビ

1980年代ブラジルでケーブルテレビが始まりましたが、最初はCNNや、MTVなど外国の番組しか、流れませんでした。1990年代からブラジルのコミュニケーション関係の大グループが投資をして、ブラジルのケーブルテレビ放送が始まりました。そして、テレビ局や、メディア関係グループなどもケーブルテレビの投資を始めました。

1990年代の中頃になっても、ブラジルのケーブルテレビの毎月の料金は高かったのです。加入者は少なかったです。1994年に加入している家は40万世帯でしたが、現在650万世帯まで増えました。それでもブラジルのたった11%です。

日本の場合は1970年代からケーブルテレビが始まりました。現在1、000以上

のケーブルテレビ局がありますが、ブラジルと違うのは、ローカルテレビ局がたくさんあることです。

(5) 文化交流

米子にいる間に他の国の文化を学んだり、地域に住む外国出身者と県民が気軽に集まって交流する、国際交流財団主催の色々なイベントに、私も参加をしました。

「ハワイの集い」のイベントでは、ハワイ出身の方に話を聞いたり、写真を見たり、その他ダンスや、料理もありました。そのイベントの手伝いで会場の準備をしたり、本番の写真を撮ったりしました。

「クリスマス」のイベントでは他の外国人と、自分の国のクリスマスについて参加した人に話をしたり、質問に応えたりしました。あとは参加者の人達と一緒に、折り紙を使ってクリスマスカードを手作りしたり、クッキーにチョコレートペンでデコレーションして食べたりしました。

その他ハローほうき国際交流フェスティバルでは、民族衣装のコーナーを手伝ったり、準備をしたりしました。



国際交流財団のクリスマスイベント

(6) オザスコ市

私はサンパウロ州のオザスコ市という町に生まれ、育ちました。

オザスコ市は、人口約71万人、ブラジル・サンパウロ州内で第5位の規模です。昔オザスコ市はサンパウロ市の一部でしたが1962年にサンパウロ市から独立した新しい街です。店が多く、学校も多いので、周りの町の人々がオザスコ市に買い物や勉強に来ます。オザスコ市と三重県の津市は姉妹都市です。



(7) 終わりに

学生時代に9人の友達と色々なビデオ作品を制作し、ショートムービーや、番組などを作る色々な経験をし、スペインとブラジルの有名な映画フェスティバルで賞をもらったこともありました。卒業してからも一緒にたくさんのもので作りたいと思い、会社を立ち上げることに決めました。今年その友達と自分達の会社を作ることになり、日本での経験を生かして、映画やCMなどのプロダクションを作りたいと思います。現在私が日本にいる間に、友達が準備を進めています。3月ブラジルに帰ると忙しくなると思います。



大学で作った作品



ブラジルの有名なフェスティバルで賞をもらいました

この8ヶ月間、プロのカメラマンとしての技術を学び、日本語を勉強し、日本の文化を学び、多くの人達とブラジルとの違いについて話したりなど、最高の経験をさせていただいたと思います。このような研修の機会を与えてくださり大変有難うございました。研修に際して日本でお世話になった方々、ブラジルの関係者の方々には、心から感謝を申し上げます。



中海テレビ - 報道チーム

1 研修員プロフィール



氏 名 ミヤグマル ダシドラム
国 籍 モンゴル
出 身 モンゴル中央県食糧・農牧業・中小企業局
研修分野 農業（野菜栽培）

2 研修機関の概要

機関名 鳥取県農林水産部農業大学校教育研修部
鳥取県倉吉市関金町大鳥居 1 2 3 8
代表者 鳥取県農林水産部農業大学校 校長 藤原明康
指導者 鳥取県農林水産部農業大学校 助教授 長江弘志 ほか

3 研修経過

月 日	内 容
2009. 9. 13	来県
9. 14	農業大学校で研修開始
11. 9	研修修了式・懇親会
11. 10	離県

4 研修報告

私は日本の鳥取県立農業大学校で野菜のハウス栽培法について2カ月間研修を受けました。

研修期間中、一棟のハウス（150㎡）を担当し、キュウリを植えました。来県する前にキュウリの播種やハウスのある程度の土づくりは用意してありました。ハウスの除草後、灌水を行いました。翌日、堆肥と窒素やリン酸などの肥料をまきました。堆肥は1000kgまきました。質の良い堆肥は無香料で乾

いた性質をもっています。定植 2 週間前に堆肥をまきます。堆肥は土づくり、野菜作りに効果があります。

施肥後、耕耘をして、ハウスの土壌を平たくし、高さ 15 cm、幅の長さ 90 cm の栽培ベッドを作りました。栽培ベッドは野菜の生育、根の活着、水のしみ込み等に関係します。野菜の生育期間と日当たり、風通しの方向を考えて栽培ベッドを作りました。

栽培ベッドを作った後、透明マルチをかぶせ、株間と条間を測り、穴を開けました。

2 種類の品種のキュウリ苗（普通のキュウリと小型キュウリ）を定植し、ハウスの温度を昼間 20 度から 25 度、夜間 13 度に調整します。

定植する前にポットあたり 2 個ずつ化成肥料を与えました。そして、合計 134 ポットのキュウリに 268g、つまり株ごとに 2g ずつ肥料を与えました。

定植直前には 30 リットルの水に 60ml 液体肥料を溶かし、苗に与えました。普通のキュウリを 68 株、短い品種を 66 株植えました。

キュウリは生育が早いため、なるべく早めに支柱などを設置しておきます。普通の品種は紐誘引を、短い品種はキュウリネットを設置して誘引しました。

また、校長先生と他の先生方、家畜コースの学生と一緒にコーンサイレージの鎮圧作業をしました。

学生達と一緒に野菜の収穫、分別、包装などをして出荷に行ったりしました。

また、イチゴ、キャベツ、トマト、ニンニク、ホウレンソウの作り方について学びました。

研修期間中、ミニトマトやキュウリを作っている農家さんを視察させて頂きました。ミニトマト作っている農家さんのトマトの交配方法に驚きました。ミツバチを使って交配を行っていたからです。とても興味深かったです。

キュウリを作っている農家さんは砂質土壌に野菜を栽培しており、とても感動しました。なぜなら、モンゴルでは砂質土壌にジャガイモだけ手間をかけてつくります。キュウリや他の野菜に関しては栽培が難しいため、あまり砂質土壌は適しておらず、栽培していません。

鳥取県立農業大学校での研修は短い間でしたが色々勉強になりました。日本では手間をかけて野菜栽培をしていることがわかりました。勉強と実習を同時に行ったからこそ沢山のことが学べました。

中央県から来た研修生はみんな野菜作りについて色々勉強して帰国します。帰国後、研修で得た知識をいかし、野菜栽培の講習会、野菜を使った料理やサ

ラダなどを紹介する講習会を開いています。その講習会に3、4回参加したことがあり、みんなが研修を受けた現場（鳥取県）に行って、見て学びたいと思っていました。そして皆様のおかげで来県させて頂き、沢山のことが学べて嬉しく思います。

今後、研修を活かせるよう頑張ります。

最後に野菜の育て方について教えて頂いた白岩先生、盛山先生をはじめお世話になった農業大学校の沢山の方々に感謝を申し上げます。そして鳥取県庁交流推進課、国際交流財団の皆様、大変お世話になりました。皆様の今後のご発展を願います。

ありがとうございました。



堆肥をまきました



キュウリの定植



初めてのトラクターによる耕耘



ミニトマトの定植



学生と一緒に訪れた大山ミルクの里



はじめての寿司



防災フェスタ



花回廊



野菜コース送別会



鳥取砂丘

自治体職員協力交流研修員
(中国吉林省)



氏名 周婧怡(ジョウ ジンイ)
 国籍 中華人民共和国
 出身 吉林省長春市
 研修 商工行政

研修経過

月 日	研 修 内 容
5/24	来日（東京成田空港到着）
5/26	東京都内視察（国会議事堂、東京湾のゴミ処理場）
5/27	日本語研修開講（滋賀県大津市の全国市町村国際文化研修所）
5/30	スタディーツアー（琵琶湖と琵琶湖博物館など）
6/13	京都府内視察（金閣寺、清水寺、二条城など）
6/24	日本語の研修最終成果発表会、クラスで第三位受賞
6/25	閉講式、滋賀県を離れ島根県松江市に移動
6/26 ～7/29	島根県松江市しまね交際センターで日本語研修開講（銭太鼓と文化の交流会などの体験）
7/11	境港視察（水木しげるロード、夢みなとタワー）
7/30	日本語の研修最終発表会、島根県を離れ鳥取県に移動
7/31	鳥取県国際交流財団へあいさつ
8/3	銀行口座の開設、外国人登録証
8/4	鳥取県庁交流推進課と商工労働部へあいさつ。商工労働部で研修開始
8/5	知事表敬
8/7	鳥取県産業を考える懇談会に参加
8/17～21	地元企業見学会に参加（倉吉商議所主催）
8/24	JICA 青年研修事業の会議に参加
8/26	ジェトロセミナー「ウラジオストクから見た極東経済事情・日露ビジネスチャンス」に参加
8/31	米子市の地域力連携拠点海外展開セミナーに参加
9/1～30	経済通商総室の通商物流チームで座学研修
10/7	大阪勧業展に参加
10/10～ 13	日本の祭りに参加（吉林省の行政団に随行）
10/15～	東京秋季研修（成果発表会、交流会、江戸東京博物館を視察）

16	
10/28 ~ 29	米子市、境港市に出張（ロシア連邦地方行政団に随行）
10/31	鳥取県技能祭に参加
11/5	工場（製造業）見学会参加（鳥取県西部の企業と島根県の企業） 「寿製菓（株）浦津工場、中浦食品（株）境港工場、城東化成（株）」
11/6	「平成 21 年度第 3 回とっとり貿易支援センター全体会議」に参加
11/9	産業振興総室で研修開始
11/11 ~ 11/14	「とっとり企業人交流会 in 名古屋」に参加 見本市「メッセナゴヤ 2009」へ鳥取県ブースを出展するに当たり、 ブース運営や接客、共同出店の企業の商談補助を実施し、販路開拓支援 施策について研修
11/19	「日本・中国青年親善交流事業」に参加
11/28	日本のお弁当を作ろう会に参加
12/12	「平成 21 年度遷喬小学校国際交流集会」に参加
12/14	鳥取県産業技術センターに見学
1/20 ~ 1/22	東京ビッグサイト「国際電子部品商談会」に参加
1/24	地球村の国際交流に参加（鳥取県国際交流財団主催）
2/1	雇用人材総室で研修開始
2/8	障がい者就業支援説明会に参加
2/16	「鳥取県の企業見学会」に参加（ダイヤモンド電機株式会社、株式会 社吉谷機械製作所、株式会社ツーウェイシステム）
3/10	副知事表敬、研修修了式
3/12	米子空港より帰国

研 修 報 告

1. 始めに

平成 21 年度自治体職員協力交流研修員として、鳥取県にて 10 ヶ月の研修を受けました。この間は主に鳥取県庁商工労働部の経済通商総室、産業振興総室、雇用人材総室の三つの部署で勉強してきました。研修期間中、民間活動、企業の見学、会議の参加などから日本の文化、経済を学びました。そ

して、日本人は仕事に真面目なところが一番深い印象に残りました。

(1) 研修の概要

東京研修

5月24日～5月27日、

今回の研修は、10カ国合計37名の研修員がここに集まりました。初日は、日本総務省にて研修開幕式を終えた後、日本語能力テストと研修の説明を受けました。後の二日間は、日本の国会議事堂や東京湾の廃棄物処分工場を見学しました。

滋賀 JIAM の研修

5月27日～6月25日

日本語の勉強を中心に滋賀県の大津市で一ヶ月の専門研修を行いました。この間は日本語の授業以外に民間活動、博物館の参観、セラミックスの制作体験などとても充実した日々を送りました。一方、JIAM の設備も完備していて、生活と学習には素晴らしい環境でした。

島根県松江市研修

6月30日からほかの三名の研修員と一緒に島根県松江市の国際研修館で日本語専門研修を始めました。ここの研修は JIAM の研修と違って、少人数の勉強によって、日本語がかなり上達しました。

島根県での研修は、宍道湖、松江城、出雲大社、石見銀山遺跡など有名な観光地を観光したり、祭りを体験したり、積極的に日本の文化に触れるようにしました。自然の美しさとその土地の古代の伝説は、素晴らしい思い出になりました。

東京秋季研修

10月15日～10月16日

東京の集団研修はとてもいい経験になったと思います。今回は再び他の研修員と会って、生活の話から仕事の経験の話まで、沢山の話をしました。お陰でもっと日本の文化、風俗を知ることができました。そして、study tour も非常に深い印象に残りました。今回東京での研修は帰国する前、最後の集団研修になるので、私にとってはとても貴重な思い出になります。

(2) 専門研修

二ヶ月ほどの日本語の研修を終えて、8月1日から鳥取県庁の商工労働部で日本の経済、物流、文化などに関して正式の研修を始めました。研修初日、文化観光局交流推進課の竹中さんと商工労働部物流チーム長の吉川さんから鳥取県の文化、生活及び鳥取県庁の組織についての紹介を受けました。今

回の研修期間に私は経済通商総室、産業振興総室と雇用人材総室にて勉強することになったので、それぞれ業務の内容を簡単に紹介したいと思います。

経済通商総室

経済通商総室は、経済の推進と物流の共同化、効率化等、産業競争力の維持、向上、そして個々の事業者活動の支援など、県内産業の競争力を強化する部署です。

中には通商物流、企画調査、経営支援三つの team から構成されています。

産業振興総室

企業立地推進チーム、新事業開拓チーム、産学金官連携チームから構成されています。

主に県外企業の誘致、デザイン・マーケティング、IT 産業の振興、県内企業の新増設支援など。

雇用人材総室

雇用人材総室には人材育成確保チーム、労働政策チーム、雇用就業支援チーム三つのチームから構成されています。

主に人材育成の研修の支援とか、産業・企業の見学など。就職者の能力向上や活用雇用関係の助成制度、開業率を高めることと就職率を高めます。

(3) 工場見学

研修中、いろんな工場の見学もしました。合理化された製造工程と高度な管理技術などに驚くとともに大変勉強になりました。

企業訪問と勧業展

大阪勧業展に参加しました。今度の勧業展中で、最も印象に深かったのは自動車のフロントの探測器です。展示する商品の多様化、山道の曲がり角などで早めに測定することができて、運転者と歩行者の安全のために役立っていました。その他の大部分の製品も中小企業の製品開発に対する革新が日増しに行われているそうです。

鳥取県産業技術センターに見学

産業振興総室の産学金官連携の寺嶋さんと一緒に鳥取県産業技術センターにいきました。鳥取県産業技術センターは電子・有機素材の開発をする研究所です。中にはいろんな見たことも聞いたこともない機械や設備を見られてすごく勉強になりました。本当に良かったと思います。

(4) 日本文化と生活体験

日本の祭り

日本古来の文化の伝承です。祭りを運営する人、参加する人、そして見る人、

すべての人がひとつになって夢中になれる唯一の文化といえます。研修中に鳥取の祭りに参加して、日本の風俗文化を肌で感じました。

日本の食文化

日本は米を主食にして、豆・魚・海草・野菜などを、たっぷり取り入れた食事が特徴で、究極の長寿食として世界中の人々に注目されています。

私は初めて日本にきた時、日本料理は中国の料理より味が薄いと思いましたが、今はもうすっかり日本料理にはまって、食卓になくってはならないものとなりました。

2. 終わりに

時間はあっという間に過ぎ、まもなく研修が終わります。振りかえってみるといままでの研修生活はまるで昨日のように思います。研修から日本の制度、経済、文化などいろんな面で勉強になり、様々な体験を通して、日本は整然かつ効率的な国だと感じました。私の人生の中で貴重な思い出になるでしょう。国に帰った後も勉強を続け日中の友好の架け橋として力を注ぎたいと思っています。

最後に、鳥取県商工労働部、国際交流財団の皆さんに感謝致します。皆さんにいろいろ迷惑をかけまして、誠に申し訳ありません。本当にありがとうございました。特に研修期間中私の担当である、交流推進課の竹中さんと国際交流財団の大熊さん、商工労働部の小林さんに仕事及び生活などでいろいろ助けてもらいました。心からお礼を申し上げます。長い間お世話になりました、皆さんと再会できることを心待ちにしております。



国際電子部品商談展（東京）



日本語の成果発表会（JIAM）

日本のお弁当をつくろう会

韓国江原道行政実務研修生
(韓国江原道)

1. 研修員プロフィール



氏 名 李美静 (イ ミジョン)
年 齢 29 歳
国 籍 大韓民国
出 身 江原道 春川市
研修分野 青少年、体育分野

2. 研修機関の概要

機関名 鳥取県教育委員会事務局スポーツ振興課、鳥取県企画部青少年・文教課、
鳥取県文化観光局交流推進課、鳥取県西部総合事務所県民局・福祉保健局

代表者 鳥取県教育委員会事務局スポーツ振興課長 加藤憲雄
鳥取県企画部青少年・文教課長 宮内武幸
鳥取県文化観光局交流推進課長 小牧兼太郎
鳥取県西部総合事務所県民局長 岡村俊作
鳥取県西部総合事務所福祉保健局長 山根弘和

担当者 鳥取県教育委員会事務局スポーツ振興課 齊木宏寿係長、山本雅丈指導主事
小林直樹主事
鳥取県企画部青少年・文教課 笠田孝二企画員、西尾麻都子企画員
鳥取県文化観光局交流推進課 小谷章主幹、森田雅典副主幹、古岡伸也主事

3. 研修経過

月 日	研修内容
4月 3日	来日（米子空港）
4月 6日	鳥取県国際交流財団のオリエンテーション
4月 8日	知事表敬
4月 22日	北東アジア産業技術交流実務協議のための韓国訪問団の出張随行
6月 3日	青少年健全育成協力員研修会（鳥取県中部総合事務所）
6月 4日	鳥取県東部地区日韓親善協会の定期総会
6月 8日	国際交流活動（田植え/鳥取市立米里小学校）

6月30日 ～7月1日	日本、韓国、ロシア定期貨客船航路正式就航記念式等（境港市）
7月5日	「スイカ&ながいもマラソン大会」及び交流会参加
7月7日	青少年補導活動（鳥取駅の周辺）
7月23日	青少年・文教課の有害図書類指定審査会
7月30日	鳥取県国際交流財団の「わいわい(Wide Wide) ワールド」参加
8月3日	薛幸夫氏 江原道名誉道民顕彰受章祝賀会
8月8日	「第45回鳥取しゃんしゃん祭り」一斉踊り県庁連参加
8月11日	健康診断、江原道女性議員との懇談夕食会
8月25日	第5回鳥取県、江原道環境衛生学会関連江原道訪問団の夕食会
9月9日	第64回国民体育大会「トキめき新潟国体」鳥取県選手団結団式
9月12日	「第5回ママちゃり耐久レース」（鹿野小学校） 第2回鳥取県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（鹿野町）
9月27日 ～9月28日	鳥取県「江原道 WEEK」（江原道映画祭、江原道観光説明会など）出張 （境港、米子）
10月9日 ～10月13日	第9回全国障害者スポーツ大会「トキめき新潟大会」（新潟県）
10月16日 ～10月21日	第22回全国スポーツ・レクリエーション祭 「スポレクみやざき2009（宮崎県）」
10月21日	江原道人材開発院の訪問団の歓迎会
11月15日	「第1回境港妖怪ウォーク」参加（境港市）
11月21日	韓国料理の講習会（鳥取県東部地区日韓親善協会）
11月28日	「鳥取松葉ガニ祭り」体験、「お昼お弁当作り」イベント参加
12月14日	第64回国民体育大会「トキめき新潟大会」知事表彰
12月20日	「話してみよう韓国語」第5回鳥取大会（米子）
1月9日	在日本大韓民国民団鳥取県地方本部の新年会
1月30日	「日本のお正月を楽しむ会」参加、第11回智頭宿「雪まつり」体験
3月10日	副知事表敬、研修報告会
3月11日 ～3月12日	鳥取県西部総合事務所県民局での研修
3月18日 ～3月19日	鳥取県西部総合事務所福祉保健局での研修
3月26日	帰国（米子空港）

毎週 2回	スポーツ教室(9月～2月、水曜日・金曜日)
毎週2～3回	日本語の授業(4月～3月、火曜日・木曜日)

4. 研修報告

(1) はじめに

江原道-鳥取県の交換研修生に決まった後、研修分野を悩む中、まだ多様な分野の勤務経験が多くない私が一番よく分かっている分野を研修主題に選択した。体育・青少年分野は日本へ来る前まで私が江原道庁で担当していた業務で、「生」の質を重要視する現代社会では余暇生活と健康増進の両面で生涯スポーツの重要性はますます増している。また、青少年は未来社会を担って行く主人公であると同時に家庭と社会と国家の希望である。現在インターネット・ゲームなど各種有害環境に曝されている青少年を保護、善導して健全育成して行くことは何より重要である。

江原道と鳥取県の体育・青少年分野の主な業務は似ている点多かったが、国家と地方自治体の固有事務と委任事務などにおいては差もあった。

本報告書は平成21年度鳥取県と江原道の体育・青少年分野の主要施策の紹介とその外1年間の日本での研修生活と国際交流活動に対する所感を主として作成した。

(2) 専門研修

青少年の研修

青少年・文教課は「青少年の健全育成」、「高等教育・学術振興」、「私学振興」を担当している。主な業務では青少年の健全な育成が図られる社会環境に目を向け、青少年団体と連携して青少年問題を解決し、有害な環境の浄化に取り組んでいる。また、レクリエーションを通して青少年の自立性の育成や生き生きとした社会作りに取り組んでおり、県内高等教育機関及び学術研究の振興に関する事、科学技術・人文社会科学の振興に関する事と私立学校の認可及び私立学校の振興を図ることに係る業務を推進している。

1) 主な青少年育成施策

青少年・文教課の平成21年度の主な青少年育成施策には次の3種がある。

① 心豊かでたくましい鳥取県の青少年を育てる

私立学校の支援を通して学校の教育力を向上して、高校生保育体験推進事業などの体験活動を提供し、豊かな人間性・生きる力を育成する。青少年の健全育成をはかるために「青少年健全育成協力員」による有害環境の実態調査などの情報に基づき、鳥取県青少年健全育成条例の施行状況について関係先の立入調査、指導を行い、育成環境を保全する。また、「家庭の日」の普及啓発をはかり、「心とからだいきいきキャンペーン」の推進など青少年育成鳥取県民会議の運営支援をし、親子のコミュニケーション、子育て環境を整える。

② 特定の状況にある青少年に対する取組の推進

心豊かな学校づくりを推進するため、私立高等学校などに生徒へのカウンセリングを行う臨床心理士などの配置事業を支援する。

③ 青少年を取り巻く現状・課題を捉え、施策に反映する

青少年の育成、保護などに関する総合的施策の樹立について調査審議するとともに施策の適切な実施のため関係機関との連絡調整を図る。青少年問題協議会の運営を通して青少年を取り巻く現状・課題を把握して取組の点検、評価を推進する。また、青少年健全育成条例の適正な運用を通して、県における推進体制を整備し、「少年補導センター」を設置し、運営する市町村を支援するなど市町村、民間団体との連携を図る。

2) 出張研修

青少年健全育成協力員研修会

行政と県民が協働して青少年健全育成対策を効果的に推進するため、2005年4月1日に施行された鳥取県青少年健全育成条例一部改正により「青少年健全育成協力員」が設置された。主な業務内容は鳥取県青少年健全育成条例に関係する実態を把握して(コンビニの図書類の陳列状況を確認、自販機の有害図書類が収納されていないか確認、カラオケでの深夜の時間帯に青少年が利用



していないか確認することなど)、条例の違反事項などを県へ報告する。

青少年健全育成のためには家庭と行政の役目も重要だが、地域住民皆が主体になって各種有害環境から青少年を保護して浄化する努力が重要だと思う。研修会の終わりに青

少年健全育成のために協力員たちが積極的に質疑をされていたのが印象的であった。

3) 江原道の 2009 主要施策

「未来社会を担う元気な青少年育成」のための江原道の主要施策は

「未来人材育成及びリーダーシップの涵養」

- 誇らしい江原青少年賞の授賞、青少年指導者の研修会の開催などをする。

「青少年の権利伸張と自発的な参加機会の拡大」

- 青少年参与委員会の運営及び青少年活動大祝祭の開催支援などをする。

青少年文化ゾーン及び江原道青少年インターネット放送局の運営を通して「創意的な青少年活動環境の造成」

「青少年活動基盤施設の拡充」 青少年修練館、青少年文化の家など

青少年放課後アカデミー及び非正規学校の運営支援による「脆弱階層の青少年の福祉支援」

学校暴力地域委員会の構成、家出青少年のための憩いの場の運営など「青少年保護及び善導活動の展開」

体育の研修

鳥取県の教育委員会のスポーツ振興課は県のスポーツ振興の拠点として、広く県民にスポーツを普及する「生涯スポーツの推進」と、国体などで活躍できるよう「競技力の向上」に取り組んでいる。

1) 鳥取県のスポーツ振興の方向

鳥取県のスポーツ振興の主要方針は「学校体育・スポーツ活動の充実」、「生涯スポーツの充実」、「競技スポーツの総合的な向上」の3つで「豊かなスポーツライフの実現に向けて」を目的にしている。

① 「学校体育・スポーツ活動の充実」

生涯にわたってスポーツに親しむ能力や体力・運動能力の向上、健康の保持増進の基礎を培うことをめざしている。主要施策では新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習の実践、小・中・高が連携した体育学習をとおして「体育の授業や体育的行事の一層の充実」を図っている。また、体力テストの分析と活用、基礎体力の向上を目指した学校教

育活動などの「体力・運動能力の向上」や指導者の指導力向上によって「運動部活動などの活性化」を図っている。また、「学校体育施設環境の充実と開放促進」がすすめられている。

② 生涯スポーツの充実

県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも生涯を通じてスポーツや運動を気軽に楽しむことができる生涯スポーツの振興を目指している。主要施策では総合型地域スポーツクラブの設立及び育成をとおして、「地域におけるスポーツ活動の活性化」、指導者の養成と活用及び、体育施設とスポーツサービスの向上による、「スポーツ環境の充実」、鳥取県民スポーツ・レクリエーション祭など「生涯スポーツ関連事業の充実」を図っている。高齢者・障がい者が取り組みやすいスポーツ・レクリエーション活動の普及と参加しやすいスポーツ教室を開催し「高齢者・障がい者スポーツの振興」が図られている。これ以外に「少年期のスポーツ活動の充実」、「健康づくりの推進」などがすすめられている。

③ 「競技スポーツの総合的な向上」

県民に夢や感動を与え、スポーツ活動意欲を喚起させたり、全国や世界で活躍できる選手の育成が図られている。主要施策では県体育協会との連携・加盟競技団体などの「推進組織の充実及び連携強化」、「指導体制の確立」、「優秀選手の確保と育成強化」、「スポーツ医・科学の積極的導入及びその活用」、指導者・競技団体・選手の「スポーツ国際交流の推進」、「競技力向上に係る諸条件の整備充実」、「競技スポーツに対する県民意識の高揚」などがある。

2) 「生涯スポーツの充実」重点施策

「生涯スポーツの充実」のための2009年の鳥取県の重点施策は「健康づくりの推進」、「生涯スポーツ関連事業の充実」、「地域におけるスポーツ活動の活性化」の3点である。

① 運動・健康に対する意識改革を通して「健康づくりの推進」

鳥取県の運動・スポーツ実施率は平成16年度44.3%で、これは全国推定値38.5%より9.5%上回っている。県は今後、運動・スポーツ実施率を50%以上まで引き上げて定着させることを目標にしていたが、平成21年度に実施された運動・スポーツ実施率の調査結果によると鳥取県の推定値は51.7%に到達していて、これは全国推定値より6.4%上回っている。

< 運動・スポーツ実施率 >

年度	本県推定値	全国推定値	全国との比較
平成12年度	34.8%	37.2%	-2.4%
平成16年度	44.3%	38.5%	+5.8%
平成21年度	51.7%	45.3%	+6.4%

県は成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率調査以外にも地域における健康づくり、気軽に参加できるスポーツイベントやチャレンジデー及び軽運動の奨励をする。

② 生涯スポーツ関連事業の充実

県民皆が参加する県の最大の生涯スポーツの祭典として「鳥取県民スポーツ・レクリエーション祭」を夏季(8月)、秋季(10月)、冬季(2月)の3回開催する。また、ニュースポーツやレクリエーションスポーツの普及促進を支援し、運動・スポーツの日常化を図るとともに生涯にわたる豊かなスポーツライフや健康づくりの実現に努めるために、「トリピーレクスポフェスタ」(11月)を開催している。

③ 地域におけるスポーツ活動の活性化

総合型地域スポーツクラブとは「いつでも」「どこでも」「だれでも」「いつまでも」「自分のペースで」スポーツや文化活動を楽しむことができるように、地域の身近な施設を有効活用しながら、地域のみんがが主役となって管理・運営をするクラブである。平成21年度末現在、県内19市・町・村の内17市・町で22クラブが活動しており、9クラブが設立準備中である。



「第5回ママチャリ耐久レース」
鹿の助スポーツクラブの主催



「第2回鳥取県総合型地域スポーツ
クラブ連絡協議会」

3) 出張研修

第9回全国障害者スポーツ大会「トキめき新潟大会」

新潟障害者国体は選手、保護者、ボランティア、観客たちが心の垣根を取り払って皆が一つになる祭りの場であると同時に今までの汗と熱情に惜しみない拍手を送る時間だった。障がい者のスポーツはすでに福祉の次元を越えて平常のスポーツとして位置づけている。スポーツを通して社会に適応し、参加しながら、自分の社会人としての役割を果たす。これにより障がい者の生活の質の向上を図っている。



第22回全国スポーツ・レクリエーション祭 — スポレクみやざき2009

宮崎県一円で開催された「スポレクみやざき2009」には日本全国から24種目に約15,000人が参加し、鳥取県からは、18種目172人が参加した。特に韓国選手団150人も日本生涯スポーツの祭典に参加して実力を競い、国境を越えた交流をした。スポーツをすることで自分の健康を維持し、同時に他の人々と交流することができる。「私」のための活動で



始めたことが、一つの「文化」に発展して「元気な社会作り」の基盤になること、これこそ生涯スポーツの魅力ではないかと思う。

4) 江原道の 2009 主要施策

江原道は「強い体育の江原道実現」を目標として「エリート・生活体育の振興を図る」ことと「体育のインフラ構築」のために努力している。

- 「江原体育のための中長期発展計画の樹立」(2010年～2015年)
 - 江原体育の現状の診断及び急変する時代環境に対応する計画を樹立する。
- 「体育関係機関・団体の競争力の強化」- 体育機関・団体の研修会の開催。
- 「優秀選手・指導者の育成による国内・国際大会の競技力強化」
 - 優秀選手・指導者の育成し、国内・国際大会の誘致・参加を支援する。
- 「冬季スポーツに有望な人材の育成事業」

- 冬季スポーツに力を入れている学校を支援し、冬季スポーツに有望な人材に奨学金を支援する。

「国際体育交流の推進」

- 4ヶ国高校生親善体育大会(韓国、日本、中国、ロシア)に参加するとともに、都市別体育交流(カナダ、中国)を推進する。

「障がい者の体育振興を図る」

- 障がい者の体育大会の開催・参加を支援し、障がい者の体育サークルを支援する。

「大会開催及び参加の支援」

- 江原道の種目別体育大会(25大会)、「第17回江原道民生活体育大会」を開催し、「2009全国国民生活体育大祝典」への参加支援などをする。

「生活体育振興事業の継続推進」 <国の事業>

- 江原道は18市・郡と提携し、道の全域に生活体育指導者109人を配置するとともに高齢者・子供・障がい者に多様な生活体育プログラムを普及して、150ヶ所での生活体育教室の運営を支援している。また、低所得層の青少年たちの体育活動支援のためにスポーツバウチャー事業を推進している。また、現在道内3つのスポーツクラブの運営を支援している。

「エリート体育」は日本の「競技スポーツ」、「生活体育」は「生涯スポーツ」を意味する。

韓国のスポーツクラブは今モデル事業(2006年~2010年)で、国と地方自治体の提携のもとに計画を推進している。その目的は次のような3点である。
生活体育・学校体育・エリート体育の連携及び発展の基盤づくり。

「一般の人のためのスポーツ活動」をスポーツクラブの中でみんなが行う。

韓国の実情に相応しいスポーツクラブのモデルの開発・普及を推進。

(3) 国際交流活動など日本での生活

1) 小学生とともにした田植え

交流推進課の国際交流員と鳥取市立米里小学校2年生のクラスの授業に参加して、韓国のあいさつの言葉と遊びなどを紹介した。授業時間が終わった後、小学生たちと教室で一緒に昼ご飯を食べたが、子供が小さな手でクラスの友達のために直接配食をする姿が印象的であった。(韓国は小学校の低学年の場合、自律配食が少ない。) 昼ご飯を食

べた後で行われた小学校の近くのたんぼでの田植え活動も、子供と共に協同作業の大切さと、米一粒一粒に入っている汗の意味について、もう一度深く考えさせられた。言葉は通じなかったが、久しぶりに童心に返って、子供と心を通わせることができた大事な国際交流活動であると同時にボランティア活動であった。

2) 韓国料理の講習会

鳥取県東部地区日韓親善協会と、江原道の春川ソムベ情報化村の交流事業として実施された「韓国料理の講習会」には、老若男女、国籍を問わず60人余りの県民が参加した。韓国の越冬用キムチと、春川ソムベ情報化村の特産品である「ナス」を使ったチヂミなどを参加者が自分で作ってみて、韓国の食べ物に対する質問時間を持つなど、食べ物を媒体としてお互いの文化を感じながら学び、両国が更に一步近くなった交流事業ではなかったかと思う。

3) 鳥取県国際交流財団のイベント

鳥取県国際交流財団は、県内の居住外国人と国際交流に興味がある日本人を対象に、日本のマナー、お弁当作りなど、多様な国際交流イベントを開催している。私も「わいわい(Wide Wide)ワールド」プログラム、「日本のお正月を楽しむ会」などのイベントに参加した。参加したイベントの中で、「日本のお正月を楽しむ会」は多くの外国人が参加して日本の伝統的な遊びを体験したり、日本の伝統衣装の着物を着て、記念撮影をするなど楽しい時間を過ごした。特に、多くの国の外国人が参加して、日本の文化だけではなく、その他の外国文化も体験し、交流することができたイベントだったと思う。

4) 日本での生活

鳥取に来て「スイカ&ながいもマラソン大会」に参加して、好きなスイカもたくさん食べて、「ママちゃり耐久レース」という面白い大会にも参加した。雨の中でレースをするなど多くの異色的な体験をした。この中で何より記憶に残ったことは、暑い夏の「しゃんしゃん祭りの傘踊り」に参加したことではないかと思う。地域の住民が直接主体となって行う鳥取市の伝統行事に、私も参加することができてとても光栄だったと思う。暑い天気だったが、暑さを全然感じられないくらい楽しい体験だった。

また週末は関西、広島、岡山、香川など日本の国内を旅行しながら見聞を広めることができた。あちこち旅行をしたり、いろいろ体験をしたり、悔いのない時間を過ごしたが、ただ一つ心残りだったのは「鳥取の小さい富士山」大山の頂上に登らなかったことである。

5. おわりに

米子空港に到着して入国手続きに、途方に暮れていたのが数日前の事のように。長くても短かった1年の研修期間も仕上げになっている。日本語は簡単なあいさつの言葉しかできなかった私が、こちら鳥取でたいした不便もなく快適に生活することができたことは、交流推進課、スポーツ振興課、青少年・文教課、鳥取県国際交流財団の職員の皆さまとその他、多くの方の暖かいご指導と助けがなかったら不可能な事だったと思う。特に雪が降る時も雨が降る時も、1年間毎週県庁にいらっしゃって、日本語を含めて日本の文化、生活など多くの教えをいただいた北山先生に心より感謝したいと思う。

振り返って見れば、日本での一分一秒が私にとって大切に感謝したい時間である。日本の行政を勉強することができたし、大きくは日本という国を勉強することができた。江原道と鳥取県の交換研修生として、今までの1年間の行政研修と日本での生活が、これからの私にとって業務的にも個人的にも大きな財産になると思う。江原道と鳥取県の相互発展的な交流のために、微弱だが力になることができるように、今後とも一生懸命に努力したいと思う。

県 費 留 学 生
(ブラジル)

1 留学生プロフィール



氏 名 カチア ルリ モリオカ
年 齢 23歳
国 籍 ブラジル
住 所 サンパウロ州ピラール・ド・スール市
研修科目 品質工学

2 留学機関の概要

機関名 鳥取大学大学院工学研究科
所在地 鳥取市湖山町南4丁目101
指導教授 生産環境システム研究室教授 小幡文雄 先生

3 研究・活動経過

月 日	研究・活動内容等
2009. 4.23	来日（東京着）
4.24	来県（鳥取着）
4.24	国際交流財団オリエンテーション
4. 28	鳥取大学工学部小幡教授に挨拶
5. 1	鳥取大学入学
5. 7	鳥取県庁交流推進課訪問、 知事、県議会議長、ブラジル鳥取友好議員連盟会長表敬訪問
5. 14	鳥取大学学長表敬訪問
6. 1	鳥取大学創立記念日のバレーボール大会に参加
6. 12	ライオンズクラブ主催の子供学園での交流会に参加
6. 19	I F A（鳥取大学国際交流サークル）ランチパーティでブラジル料理を紹介
6. 25	鳥大環境生産システム研究室の歓迎会に出席
7. 4	パネルディスカッションOur Little Earth に参加、ブラジルの環境問題について発表
7. 5	「北栄町すいか、ながいも健康マラソン大会」に参加
7.11	裏千家師範に茶道の手ほどきを受け、浴衣の着付けを体験し仁風閣で盆踊りを体験

7.30	国際交流財団主催のワイワイWorldに講師として参加し、小中学校生達にブラジルの遊びや言葉、踊り（Samba）や料理を紹介
8. 3	鳥取ブラジル友好協会、鳥取ブラジル会による歓迎会に出席
8. 7	湖山小学校で授業に参加し、留学生から見た鳥取の印象を話した。
9.4~6	岡山大学で行われた中国地方の大学のバレーボールトーナメントに参加
9.11	品質管理の研修のため（株）大真空鳥取事業所を見学
10.10	「日本の祭り」に鳥取大学の留学生連として参加 鳥取大学の「風門際」にIFAと参加
10.11	「日本の祭り」でコカコーラウエスト公園でブラジル会の会員とコーヒーを販売
10.13~16	横浜で行われた「第4回コース会議」と「第50回海外日系人大会」にAsebex（日本在住ブラジル研修生留学生会）の副団長として参加
10. 24	大学の授業「日本文化事情」で湯村温泉と但馬牛の博物館を見学
11. 3	「日本文化事情」のクラスで米子で新歌舞伎を観覧
11. 8	ブラジル友好協会の会員と一緒にそば作りを体験
11.18	明治小学校でブラジルを紹介
12. 5	愛知県豊田市（株）トヨタ自動車組み立て工場及び溶接工場を見学
12.11	敬愛高校のインターアクトクラブと料理を通じた交流
12. 12	鳥取市立遷喬小学校で生け花体験、ブラジルの紹介
12. 19	IFAのクリスマス交流パーティに参加
12.19~21	栃木県日光市で全国のブラジル留学生とクリスマスパーティ
2010. 1. 12	鳥大ゼミで専門研究の中間発表
1. 21	湖山小学校との交流に参加
2. 17	鳥大研究室の卒業論文発表会を聴講
2. 19	明治小学校でブラジルの遊びと料理を紹介
2. 22~23	鳥取大学と鳥根大学の留学生達と大山でスキーを体験
2. 25	（株）グリコの鳥取工場を見学
2. 25	鳥大研究室の送別会
3. 7	鳥取ブラジル友好協会、鳥取ブラジル会による送別会に出席
3. 10	研修修了式・報告会
3. 12	離県、成田空港より帰国

4 留学報告

(1) はじめに

子供のころから祖父母は私に日本の話をし、いつも日本語で話しかけてくれたので、ポルトガル語より先に日本語を覚えました。14歳までは町にある日本語学校へ通い、運動会や盆踊りなど日系人の文化や習慣に囲まれて育ちました。81年前、鳥取を出て家族みんなとブラジルへ移民し苦勞をした祖父は私達に出来るだけ日本の文化と習慣を教えたかったのです。

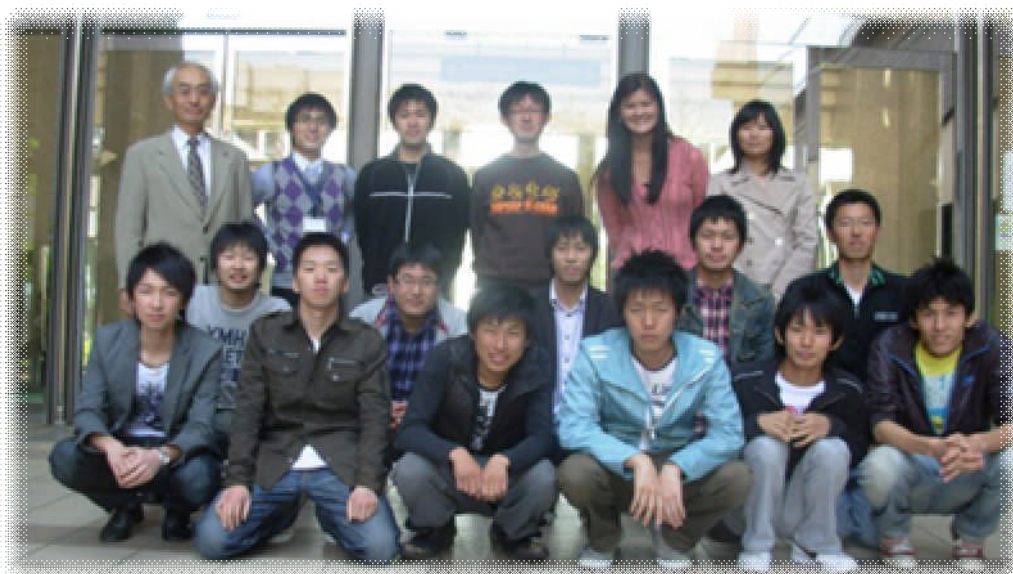
私達、日系ブラジル人とは、ただ単に日本人の顔をしているわけではなく、ブラジルに住んでいても日本人の精神を持ち続けています。2008年の移民百周年にブラジルでいろいろな行事があり、参加したことがきっかけで、日本とブラジルの友好に何か役に立ちたいという気持ちがだんだん強くなりました。そんな時鳥取大学に留学できる制度があることを知り大変うれしく思いました。

ブラジルではUFSCAR大学生産工学科を2008年に卒業し、鳥取大学では生産システムと品質管理について勉強をすることとなり、日本へ行く夢が実現しました。

(2) 鳥取大学での研修

(2.1) 研究内容

私は、鳥取大学大学院工学研究科機械宇宙工学専攻機械工学講座生産環境システム研究室で、生産システムおよび品質管理手法に関する研究をしました。



研究室の皆さん (4月)

ブラジルの大学 5 年生の時の食品工場でのインターンシップの経験、授業で学んだ「トヨタ生産システム」を通して、日本で開発された品質管理やそれに関するメソッドをより深く研究したいと思い、研究室では品質工学を学ぶことにしました。また、学んだことを実際に使うことが必要であると考え、「紙コプター」のパラメータ設計にも取り組みました。パラメータ設計とは、設計において、機能性（システムのもつ働きのばらつきの程度）を評価し、システムのパラメータの値を決定する方法です。

品質の定義は、従来、「価格というプラス概念」ですが、品質工学では機能のばらつきによる損失と使用コストと弊害項目による損失を加えた損失のことで、社会的損失とも呼ばれています。

企業におけるものづくりの経営は、企業の論理ではなく、顧客の立場で考えて、企業の利益と顧客側の損失とを均衡にしなければなりません。「社会的損失の最小化」、「個人の自由の和の拡大」が品質工学の本質的な考え方です。なお、品質工学は、ブラジルでも、別名、田口メソッドと呼ばれています。

製品には本来、理想とする機能があります。ところが、内乱、外乱、製造上のばらつきなどの影響でその機能がずれます。品質工学で重要視するのは機能がノイズの影響を受けにくくしておくことです。いろいろなノイズの下で安定して機能するように設計すべきであり、製造現場の責任にしないことが大切です。

システムには入力と出力があり、出力を変化させるための入力変数を信号因子といいます。また、システムの機能を妨げる原因を誤差因子（ノイズ）といいます。一般に、入力 M と出力 y の間には比例関係すなわち $y = M$ が成立します。

実験する場合、実験規模を小さくするために誤差因子の調合が重要となります。普通は2水準を N_1 と N_2 と設定します。 N_1 は出力を小さくする誤差因子の組み合わせ、 N_2 は出力を大きくする誤差因子の組み合わせです。表 1 は、誤差が N_1 と N_2 の時の入力 M_j ($j=1,2,\dots,k$) に対する出力 y_{1j} と y_{2j} を示します。図 1 は、入力 M と出力 y の関係を示します。

表 1

信号 誤差	M_1	M_2	M_3	...	M_k
N_1	y_{11}	y_{12}	y_{13}	...	y_{1k}
N_2	y_{21}	y_{22}	y_{23}	...	y_{2k}

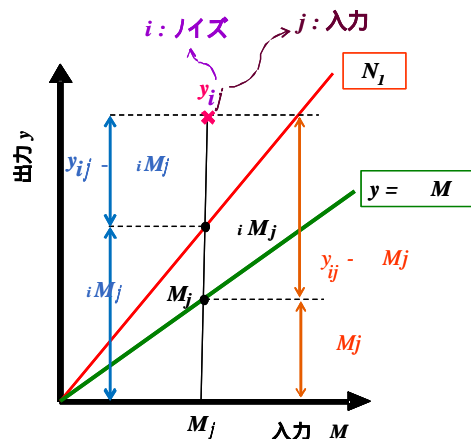


図 1 . 入力 M と出力 y の関係

図1中で、出力 y_i は、比例項 βM_i とばらつきの項 $(y_i - \beta M_i)$ の和に分解できます。したがって、 y_i の2乗和 S_T 比(全変動)は以下のように考えることができます。

$$\sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^k y_{ij}^2 = \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^k (\beta M_i + (y_{ij} - \beta M_i))^2$$

$$= \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^k (\beta M_i)^2 + 2 \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^k \beta M_i (y_{ij} - \beta M_i) + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^k (y_{ij} - \beta M_i)^2$$

→ にする β_1 と β_2 は次のようになります。

$$\beta_1 = \frac{\sum y_{ij}}{\sum M_i^2}$$

$$\beta_2 = \frac{\sum y_{ij} y_{ij}}{\sum M_i^2}$$

$$\sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^k [\beta M_i + (\beta_2 M_i - \beta M_i)]^2$$

ただし、 $\beta = (\beta_1 + \beta_2)/2$

$$= \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^k (\beta M_i)^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^k [(y_{ij} - \beta) M_i]^2 + \sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^k (y_{ij} - \beta_2 M_i)^2$$

全変動	=	比例項の変動	+	比例項の差の変動	+	誤差変動
S_T		S		S_{N_x}		S_e
($f = 2k$)		($f = 1$)		($f = 2-1=1$)		($f = 2k-2$)
		信号の効果		ノイズによる の違い		非線形性

誤差分散 $V_e = \frac{S_e}{2(k-2)}$

総合誤差分散 $V_{T0} = \frac{S_{N0} + S_e}{2(k-1)}$

信号の効果の大きさと望ましくない要因の効果との比であるSN比 η は、次式で与えられ、SN比が大きいほどノイズによる機能のばらつきが小さいことを意味します。

$$\eta = 10 \log_{10} \frac{\frac{1}{2} (S_0 - S_e)}{S_e} \quad (\text{db})$$

ここに、 $r = M_1^2 + M_2^2 + \dots + M_k^2$

パラメータ設計では、SN比が高くなる制御因子の組み合わせを見いだします。ここで誤差因子とは、実験において、最適な水準を選択するために選ばれた因子であり、設計者が決定します。最もSN比が大きくなる制御因子の水準を効率的に見いだすには直交表を利用します。直交表には2水準系、3水準系の他に、混合系があります。

表2は、後で述べる、紙コプターのパラメータ設計に用いた直交表 L_9 を示します。 L_9 は3水準の制御因子四つから構成されており、9通りの組み合わせで実験をします。

表2. 直交表 L_9

実験 No	制御因子			
	A	B	C	D
1	1	1	1	1
2	1	2	2	2
3	1	3	3	3
4	2	1	2	3
5	2	2	3	1
6	2	3	1	2
7	3	1	3	2
8	3	2	1	3
9	3	3	2	1

1,2,3は、各制御因子の水準を示す。

実験結果から要因効果図を作成し、それを基に最適条件と最悪条件を決定します。最適条件はSN比が最大となる、ばらつきの小さい水準の組み合わせです。最悪条件は逆に、SN比が最小となる、ばらつきの大きい水準の組み合わせです。次に、推定された最適条件と最悪条件の確認実験をします。確認と推定のSN比を比較し、その差が約3db以下だったら再現性があるといえます。

以下、紙コプターのパラメータ設計について説明します。なお、紙コプターとは紙で作られたヘリコプターのことです。

まず、紙コプターの回転メカニズムを基にその基本機能を決定します。図2に示すように、紙コプターの自由落下により、翼には空気抵抗 $R (=KV^2)$ 、紙コプター全体には重力 $F_1 (=mg)$ ； m ：全質量が作用します。

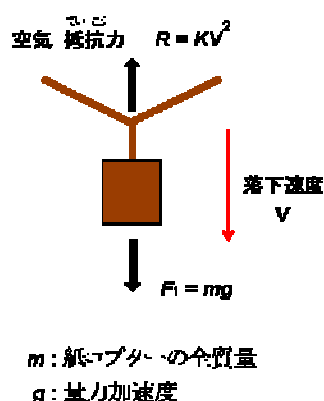


図2. 紙コプターに作用する力

ここで、紙コプターは一定速度で落下すると仮定し、 $F = F_1 - R (= ma (a: 加速度)=0)$ から得られる $V = \sqrt{mg/K}$ を基本機能と、 $M = \sqrt{m}$ を入力、 $y = V$ (落下速度)

度)を出力に設定しました。

パラメータ設計の流れは以下のようです。

- 入力、出力、誤差因子を決定
- 制御因子，水準を決定
- 結果を基に要因効果図を作成
- 最適条件，最悪条件の推定と確認

入力に関係するおもりの質量は、質量の異なるゼムクリップを三つ使って変化させました。なお、SN比の計算にはゼムクリップの質量だけではなく、紙コプターの全質量を使用しました。出力である落下速度は、規定の高さからの落下時間を測定して求めました。誤差因子は偶然的なばらつきを小さくするためにわざと大きく与える誤差条件なので、 N_1 は風の影響が無い建物の中、 N_2 は風の影響がある室外と決めました。制御因子は、図3中に示した、紙の厚さ、紙のサイズ、翼の部分の面積と迎角の四つとしました。表3は、紙コプターの制御因子とその水準を示します。

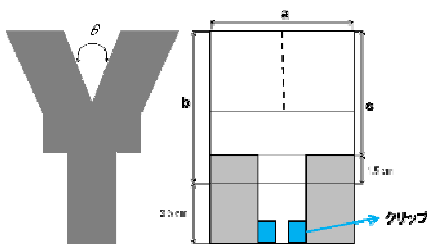


図3. 紙コプターの制御因子

表3. 紙コプターの制御因子と水準

制御因子	水準		
	1	2	3
A 紙の厚さ	薄	中	厚
B 紙のサイズ (面積) $a \times b$ cm	9x16	7x14	5x12
C 面積 (翼部分) c	1	3/4	1/2
D 迎角	▲	▼	▼

実験は直交表 L_9 を利用して行いました。SN比を計算して要因効果図(図4)を作成し、最適条件と最悪条件を求めました。最適条件および最悪条件の推定値はそれぞれ、 $A_1B_2C_3D_1$ 、 $A_3B_1C_1D_3$ となりました。

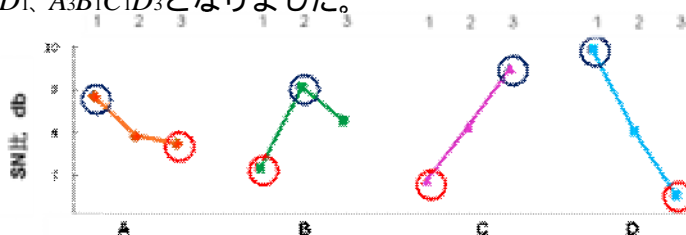


図4 要因効果図

表4は利得の再現性を示します。推定と確認の利得の差は3.9dbだったので再現性はほぼあったといえます。

表4 利得の再現性

SN比 db	最適条件	最悪条件	利得	差
推定	11.2	5.2	6	3.9
確認	11.5	9.4	2.1	

最適条件で作られた紙コプターは、ノイズの影響を受けにくく、安定して落ちることが分かりました。紙コプターの実験を通じて、田口メソッドを学問としてだけではなく、実際に理解することが出来ました。

私は今まで、品質といえば品質管理だと思っていました。しかし、品質工学を学ぶことにより、機能のばらつきによる損失をできるだけ小さく設計しておくことの重要性が分かりました。

今回、紙コプターの実験を通じて田口メソッドの基礎を会得しました。品質工学にはパラメータ設計以外にも多くの手法があるので今後それらを学んでいきたいと思っています。さらに、ブラジルの企業で品質工学を生産現場で活かしたいと考えています。

(2.2) 工場見学

● (株)大真空 鳥取事業所

大真空は水晶デバイスを生産、販売する会社です。特に品質管理について研修を受けました。品質部門では、生産ラインで品質を管理することだけではなく、従業員一人一人の活動は小さいが、集まれば大きな効果を生み出すという小さな改善を奨励しています。もし問題が起こった場合には、現在抱えている問題やその問題を解決するのにどのように対処するのかを明確に示した「4コマまんが」という方法を使い、分析と計画を行います。また、品質工学を応用し、改善と利益を目指しています。

このように大真空はいろいろなフォーカスがあり、日本的な経営の代表的な例だと思いました。

● (株)トヨタ自動車

愛知県豊田市にある(株)トヨタ自動車組み立て工場及び溶接工場を見学しました。これまで本で理論として知っていた「トヨタ生産システム」を実際に見ることができ、現場で大まかですが基礎理念を目で見ることでもできました。現在は昔と違って、1ラインで多様なモデルを生産し、効率的に顧客のニーズに答えることが問題です。トヨタの溶接では多くのロボットにより様々なタイプのボディが溶接されるフレキシブルなボディ組付ラインを利用しています。また、組立ではユニット部品はサブラインで組み立て、メインラインの負担を低減することを見学しました。

JIT(Just in Time)、かんばん方式、人がつく自動化、ポカヨケなどいろいろな基本概念を理解することができました。

● (株)グリコ 鳥取工場

鳥取県米子市にあるグリコ工場はカレーとチョコレートビスケットを製造していま

す。食品を製造しているので品質第一をモットーに製品作りを行い、2007年からISO9001の承認を受けています。

グリコでは品質、コスト、納期において成果を上げるために人間力を磨くことを大切に思っています。

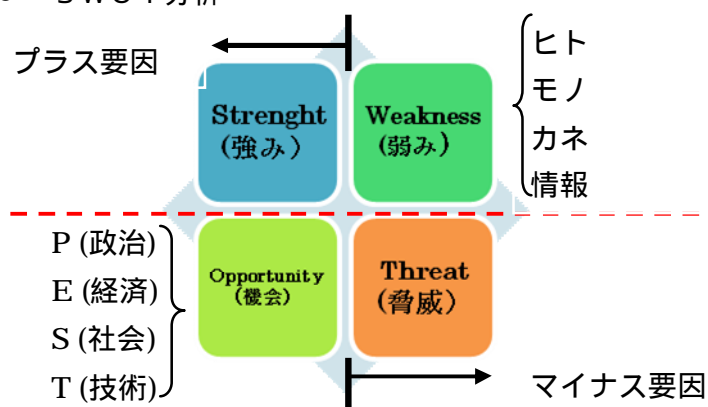
- 当たり前のことは当たり前にする
- 創意工夫で改善を続ける
- 自主独立で自ら働く

品質管理はコンベアとラインの流れで行っており、人間と機械に頼っています。

T P M (Total Productive Maintenance) の活動は7年前から行われており、その活動は機械を効率的に動かすための、企業理念の一つとなっているようです。食品の製造過程をみることができ、その製品の特徴もわかり、大変有意義な見学でした。

(2 . 3) 大学での授業

● S W O T 分析



SWOT分析とは、企業の強み (Strength)、弱み (Weakness)、機会 (Opportunity)、脅威 (Threat) の全体的な評価や戦略立案する際に使われる分析手法です。

SWOT分析は外部環境 (機会 / 脅威) と内部環境 (強み / 弱み) の分析に分けることができます。外部環境分析とは、企業あるいは事業単位が自らの利益をあげる能力に影響を与えるマクロ環境要因とミクロ環境要因の変化を観察します。マクロ環境要因を効率的に分析するためにPEST分析を活用します。

PEST分析とは4つの要素の頭文字を取って名付けられた分析手法であり、P=Politics (政治面) E=Economy (経済面) S=Society (社会・ライフスタイル面) T=Technology (技術面) という4つの分野にマクロ環境を分割して、自社が受ける影響を分析していく手法です。内部環境分析ではビジネスの3要素 (ヒト・モノ・カネ) を基に、情報も加えて分析をします。

このような分析を基にS W O T 分析手法を応用して戦略を作るのが重要です。

- 「マーケティング戦略論」

この授業では実際にケーススタディを読み、グループに分かれ発表もしました。各グループは班長、広報部長、お客様相談室長と調査部長といった役割分担をし、まるで1つの会社を代表しているようでした。SWOT分析と戦略を作る練習だけではなく、グループ内で相手の意見を聞いたり、自分の意見も述べたりと、ディスカッションをしたので私には難しかったですが、非常におもしろい授業でした。

SWOT分析以外、アンゾフのマトリクスやレイアウトの作成や商品のライフサイクルなどもケーススタディとして取りあげられました。

- 「日経新聞でビジネスを語る」

このゼミでは私自身が選んだ記事を基にそれぞれ2回発表を行いました。また、毎週ゼミのメンバーの発表も聞き、それに関する問題が先生から出され、みんなで話し合いました。業績貢献度分析、安定成長プラン、ポジショニングマップ、商品のライフサイクル等を実践的に興味深く学びました。また、SPA (Special store retailer of Private label Apparel)やSTP (Segmentation, Targeting and Positioning)も授業で学びました。

- M O Tイノベーションスクール (Management of Technology)

土曜日には社会人も受講するM O Tイノベーションスクールに参加し、とても良い刺激を受けました。とくに、日本人ビジネスマンの厳格なものの考え方や価値観は大変興味深く、授業で議論するのがとても楽しかったです。

(3) 日本での生活

日本に来る前は正直少し不安でした。なぜかというとならぶとブラジルと日本は様々な違いがあるからです。私の日本語は通じるかな？食べ物は口に合うかな？日本の生活に慣れるかな？と悩みましたが、実際に日本に来てみたら全然不安とかはありませんでした。

日本での生活は、平日は朝早く起きて、電車で大学へ通い日本語の授業や経営の授業

に出席し、その他の時間は研究室で勉強をしていました。放課後、前期はバレーボールの部活に参加しました。私はバレーボールが大好きなので日本で練習ができ、大会にも出られて大変うれしかったです。またI F A (International Friendship Association) というサークルに入り、日



岡山大学で中国地方の大学のバレーボール大会 (9月)

本人の学生やいろいろな国の留学生と交流もして、楽しく毎日過ごしました。

日本語の授業では日本語パートナーさん達(ボランティア)に大変お世話になりました。雨の日でも忙しい時でも日本語を教えてくれたり、日本の習慣や文化について話をしてくれ、とても感謝しています。こういう経験を通して私ももっと自分のためだけではなく他の人に役にたたなければいけないことに気づきました。

昼食の時間は語学シャワー室で日本人の学生と英語で会話をしながらお弁当を食べたりしました。後期からは水曜日の午後に書道を学びましたが、いつもその時間が楽しみでした。

日本はブラジルと違って季節の違いを楽しむことができる、素晴らしい所だと思います。暗闇(おおちだに公園)でピカピカ光っている蛍の様子を見るのは初めてでした。星が手でとれるような感じで不思議でした。また、京都の有名なお寺では紅葉を見ることができ、その彩りはすばらしかったです。

鳥取は自然に恵まれていることが気に入っています。時々自転車で田んぼの中を走ったり、散歩をしたり、山に登ったりするのが好きでした。浦富海岸へ行ったり、蒸し暑い夏に海で泳いだり、友達とバーベキューをして食べたことも楽しかったです。

鳥取砂丘には何回も行きました。夏に行った時は足が焼けるくらい暑かったです。冬は寒くて写真を撮っただけでしたが、砂丘が雪で真白な景色はとてもきれいでした。

今まで映画でしか見られなかった雪の中でクリスマスとお正月も体験できました。ブラジルでできないスキーも鳥取大学と島根大学の留学生達と大山で楽しみました。

私は料理を少ししかできませんが、ブラジル友好協会の皆様のおかげでそば打ち体験をし、国際交流財団主催の日本のお弁当を作るイベントにも参加しました。また、IFAの交流パーティでブラジルの料理を作ったり、高校生達と一緒に楽



ワイワイWorldで子供達と一緒にブラジル料理を作りました (8月)

しんで作ったりして、ブラジル料理を紹介する機会もありました。

国際交流イベントでブラジルのことを子供達に説明したり、一緒にブラジルの遊びをしたり、環境問題のことも話すことができました。日本の文化や習慣を学ぶだけではなく、ブラジルの文化や言葉も紹介して、私が日本とブラジルの橋渡しとして交流と友好を少しでも進められることができれば大変うれしく思います。



仁風閣で盆踊りの体験（7月）

日本の伝統文化を体験できたことも幸せでした。鳥取の留学生達と茶道を体験し、ゆかたを着て盆踊りを楽しみました。日本のお正月を体験し、着物も来ました。生け花をしたり、湯村温泉で足湯をしながらゆで卵も食べました。初め

は温泉へ入るのは恥ずかしかったです、入ってみたらとても良い気分になりました。ブラジルではもう行けなくなると考えたらとてもは残念です。

8月のしゃんしゃん祭りでは、日曜日に鳥取大学の留学生達と傘踊りをする予定でしたが、雨で中止となりました。けれども土曜日に、ブラジルから来日された鳥取県人会とブラジル友好協会の方々と一緒に楽しく踊りました。10月の「日本の祭り」でやっと本格的に傘踊りを教えてくださった若先生にみんなの踊る姿を見せられて良かったと思いました。

鳥取大学では日本人だけではなく中国、韓国、タイ、フランス、ポリビア、スダン、マラウイ、ジンバブエ、ウガンダの人達とも交流することができ、友達になり一緒に遊んだり、いい思い出もたくさん作りました。

10月には、海外日系人大会と同時に開催された、若者を中心とした「ユース会議」に参加しました。今年の会議では「日本における外国人子弟の教育問題」について在日南米学校の校長や日本語学級の先生の生の声を聞き、私達に何ができるのか、プランをたてました。私は日本に留学生として来ましたが、私と違って多くの日系人の子供達は日本の学校へ通い、日本で生活しています。その子供達にどのような問題があるのか考えたことはありませんでしたが、お互いに助け合っていくのが大切だと思いました。



「ユース会議」(10月)

(4) 終りに

日本に留学したいという私の夢は実現しました。しかし、「光陰矢の如し」というか、あっという間に日本の留学は終わってしまいました。

私達の経験したことはその時に誰と一緒にいたかで思い出すことができます。場所とか時間はあまり関係なく、一番大事なのはだれかと一緒にいることだと私は信じています。

私は鳥取で様々な人と出会い、その人達のおかげで非常にたくさんのいい思い出を作ることができました。人だけではなく鳥取では場所とタイミングもちょうど合い、すべてがすばらしいことばかりでした。日本での生活は本当に幸せでした。(「一期一会」) 治安のあまり良くないブラジルとちがって、夜遅く自転車であちらこちらへ行けたこと、コンビニ、研究室、鳥取の寒さもなつかしく思うことでしょう。

鳥取県を始め、国際交流財団、ブラジル友好協会、鳥取大学の方々、小幡先生、大田先生、上原先生、研究室の皆さん、友達は、いつも笑顔で手助けしてくださいました。皆様大変お世話になりました。私は感謝の気持でいっぱいです。

研究室と授業で学んだことをブラジルで役立てるように頑張りたいです。また大学だけではなく、日常生活で覚えたこともブラジルで活かせられればと思います。また、出会った人達のおかげで私が少しでも人間的に成長できたのならうれしいです。

私の祖父は去年の12月に亡くなり、私はその時日本におり「さようなら」は言えませんでした。祖父が鳥取に生まれてその関係で私は留学させていただくことができ、ありがたく思っています。ブラジルと日本のつながりが永遠に続くように私も頑張っていきたいです。

どうもありがとうございました。心から感謝申し上げます。

短期海外研修員
(ブラジル)

ブラジル短期海外研修員

1 研修員プロフィール

氏 名 カトウ ベロニカ アケミ
年 齢 39歳
国 籍 ブラジル
出 身 サンパウロ市
研修分野 歯科治療全般



2 研修期間の概要

機 関 名 鳥取赤十字病院歯科口腔外科
所 在 地 鳥取市尚徳町 117
代 表 者 鳥取赤十字病院院長 福島 明
指 導 者 歯科口腔外科部長 谷尾 和彦

3 研 修 経 過

月 日	研修内容
2010.1.30	来県（成田空港 羽田空港 鳥取空港）
2.1	県知事・県議会表敬訪問、鳥取赤十字病院院長表敬訪問
2.2	研修開始
2.9	中尾デンタルクリニック視察（鳥取市）
2.12	ひろデンタルクリニック視察（鳥取市）
2.23	鳥取大学医学部にて研修（米子市）
2.26	谷尾歯科医院にて研修（八頭郡）
3.7	ブラジル友好協会・ブラジル会の歓迎会（鳥取市）
3.11	鳥取赤十字病院インフルエンザ研修会に参加（鳥取市）
3.15	鳥取大学医学部にて研修（米子市）
3.18	谷尾歯科医院にて研修（八頭郡）
3.21	ブラジル友好協会の送別会（鳥取市）
3.24	鳥取赤十字病院院長帰国挨拶
3.25	研修修了
3.26	県知事・県議会帰国挨拶
3.28	離県（鳥取空港 羽田空港 成田空港） 帰国

4 研修報告

(1) はじめに

私は平成7年度6月より10ヶ月間海外技術研修員として、鳥取県立中央病院 歯科口腔外科で谷尾和彦先生に指導していただき、歯科全般にわたって研修をしました。ブラジルに帰国してからは14年間歯科医院を自営、その間に義歯専門歯科医の認定も受けました。今回は、以前鳥取県で研修をした元技術研修員・元県費留学生の再研修のために今年度から始まった短期研修プログラムにより、2ヶ月間鳥取赤十字病院歯科口腔外科で研修を受けました。

今回の研修目的は、日本とブラジルの現況を比較しながら、特に専門分野(義歯とインプラント)における日本の現在の技術、手法、機器、材料などについて学ぶことでした。また、私の経営する歯科医院の充実を図り、患者に対してより良い治療を提供するために、最新技術を備えた個人医院を視察し、参考にしたいと思いました。

(2) 鳥取赤十字病院での研修

鳥取赤十字病院では、前回(平成7年度)の指導担当医の谷尾和彦先生のもとで研修しました。平日の午前中は歯科口腔外科で診察を見学、月曜日・火曜日の午後は主に義歯・インプラントに関する手術や口内ガンの手術を見学し、その他の日は義歯についての英語文献を読みながら、指導担当医の講義を受けました。

特に谷尾先生から学んだ最新のDTM治療法は、ブラジルでも行われていることなので、帰国してからも更に勉強を続けていきたいです。また、口内の様々な病理学、例えばガン症状なども診察を見学しながら学ぶことができましたので、今後は口腔ガンや他の疾患の病理に関するチェックを行い、またその予防についても患者さんに指導をしていこうと思っています。

赤十字病院では谷尾先生を初め医局の先生方に大変お世話になりました。特に谷尾先生には治療や、文献についての講義を通して、様々なことを教えていただきました。本当に感謝しております。



英語文献での学習（鳥取赤十字病院）



鳥取赤十字病院での手術の立ち会い

（３） 歯科医院視察

私はサンパウロ市内で歯科医院を開いていますので、今回の研修で鳥取の歯科医院を訪問し、自分の医院をよりよくするために何が必要か学びたいと思いました。医院では最新の技術を使った治療方法、義歯の材料、患者用の椅子や診察室の設備などを見学しました。帰国後により質の高い歯科診療を行っていくうえで、大変参考になりました。

（４）鳥取大学医学部附属病院歯科口腔外科視察

鳥取大学医学部附属病院では、インプラントや義歯における高度な技術を用いた手術等を見学できました。ボーングラフティング（インプラントをしっかりと固定するために骨を移植する）手術は本で読んで知っていましたが、実際に見るのは初めてでした。また、大学病院の機器や設備は最新のものばかりで、大変すばらしかったです。

(5) 前回(平成7年度)の研修と今回の研修の比較

前回は大学を卒業して1年半後、ブラジルで研修医をしていたときに鳥取で研修を受けました。そのときにはまだ専門分野を決めていなかったため、研修では広く分野を学んだだけで終わりました。今回は、前回の研修から14年経過し、ブラジルで専門分野について研鑽を積み、自分自身の歯科医院も経営していることから、明確な目的を持って研修を受けることができました。前回は今回も研修受入体制・内容はほとんど同じでしたが、自分自身の専門が絞られたため、より充実した研修となりました。

5 交流について

鳥取県には鳥取・ブラジル友好協会と鳥取ブラジル会というブラジル交流団体がありますが、この交流団体の会員の皆さんには大変お世話になりました。また、14年前にお会いした方々と再会することもでき、滞在中にいろいろ助けていただきました。3月7日(日)には交流団体を中心に歓迎会を催していただき、初めて着物を着ました。おかげさまで日本文化に触れる機会も持てました。



歓迎会で着物を着て挨拶しました

6 終わりに

鳥取での2ヶ月間の研修はあっという間に終わりました。しかし、この2ヶ月間で専門分野についても、また日本の生活や文化、習慣についても、14年前より深く学ぶこ

とができました。このような有意義なチャンスを私に与えてくださったことに大変感謝しています。ブラジルに帰ってから、今回学んだことを日系人社会でも自分の専門分野でも活かしていきたいと思います。

14年前も今回もたくさんの方にお会いし、お世話になりました。ブラジル友好協会とブラジル会の皆さま、鳥取赤十字病院の皆さま、県や国際交流財団の皆さまのおかげで、私の鳥取での研修や生活はより容易く楽しいものとなりました。本当にどうもありがとうございました。

名 簿

海外技術研修員

年 度	国籍・出身地	氏 名	性別	研修内容	研修先
1988 (昭和 63)	ブラジル	中原 清治 パウロ	男	農地灌漑	鳥取大学農学部
1989 (平成元)	ブラジル	伊藤 誠 パウロ	男	園芸(果実処理 技術)	鳥取大学農学部
		山根 猛 セルジオ	男	コンピュータ ・システム	鳥取大学工学部、鳥取県情報セ ンター
1990 (平成 2)	ブラジル	伊藤 万里夫	男	歯科治療	県立中央病院
		河上 リジア ベロニカ	女	理学療法	皆生小児療育センター
1991 (平成 3)	ブラジル	西尾 リナ 佳代子	女	建設設計	米子工業高等専門学校
		菊留 恵 ルシア	女		
1992 (平成 4)	ブラジル	河上 ファビオ 竹一	男	システム工学	鳥取大学工学部
1993 (平成 5)	ブラジル	門脇 エジソン	男	農業分析化学	鳥取大学農学部
		加藤 モニカ みち子	女	グラフィック ・デザイン	米子工業高等専門学校
1994 (平成 6)	ブラジル	細田 真一 エルシオ	男	果樹栽培	鳥取大学農学部
		米原 ルシアーナ	女	海水魚栽培	県水産試験場
1995 (平成 7)	ブラジル	加藤 ベロニカ あけみ	女	歯科治療	県立中央病院
		河上 マリシー	女	企業経営	鳥取ガス
	中国吉林省	林建華(リン ジェンホウ)	女	衛生行政	県医務薬事課
	モンゴル中央県	ダグワドルジ バトバヤル	男	地方行政	県市町村振興課
1996 (平成 8)	ブラジル	河井 美智恵 ルシアナ	女	臨床検査	県立中央病院
	中国吉林省	沈在成(チン ザイチェン)	男	商工行政	県商政課
1997 (平成 9)	ブラジル	西坂 マルリ れいか	女	会計事務	中尾税経事務所
		吉田 ますみ ルシー	女	歯科治療	県立中央病院
	中国吉林省	陳香林(チン シャンリン)	女	商工行政	県商政課
	モンゴル中央県	バヤルバト ボルドバートル	男	行政一般	県市町村振興課
1998 (平成 10)	ブラジル	中尾 ソランジェ	女	広告一般	デザインスタジオ石山
	中国吉林省	曹仁秋(ツァオ レンチュウ)	男	商工行政	県商政課
		杜 軍(ドゥ ジウン)	男	環境行政	県衛生研究所
	モンゴル中央県	バルガルスレン エルデネバト	男	農業	農業大学校、園芸試験場
ツェレンドルジ アリマントヤ		女			
1999 (平成 11)	ブラジル	岩水 ミリアン 恵美	女	食品加工	大伸水産
		高橋 クリスティーナ 理恵	女	広報・報道	新日本海新聞社
	中国吉林省	玉冬輝(ワン ドンフィ)	男	商工行政	県商政課

1999 (平成 11)	モンゴル中央県	トゥグスオチル バヤルフー	女	農業	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及センター
		ソソルバラム ウラーンツェグ	女		
2000 (平成 12)	ブラジル	西森 由美香	女	歯科治療	県立中央病院
		山本 リア	女	土木	県管理課
2000 (平成 12)	中国吉林省	崔成岩 (ツウイ チョンヤアン)	男	商工行政	県経済通商課
	モンゴル中央県	エレンダワー ガンボルド	男	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及部
		ナワンバルダン トウムルツァ	女		
2001 (平成 13)	ブラジル	大原 高取 ビビアナ	女	宣伝・広告	鳥取県産業技術センター
	中国吉林省	呉英蘭 (ウ イェンラン)	女	商工行政	県経済通商課
	モンゴル中央県	チョイジャムツ バヤラー	男	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及部
		ソンドイ ウランチメグ	女		
2002 (平成 14)	ブラジル	エリカ サナエ カゲヤマ	女	建築	杵村建築設計事務所、米子工業 高等専門学校
	パラグアイ	谷口 まゆみ	女	情報技術	エコシステムクリエイター
	中国吉林省	許長春 (シウ チャンチュン)	男	環境	県衛生環境研究所
		郭大衛 (クオ ターウェイ)	男	商工行政	県経済交流課
	モンゴル中央県	スレンホルロ ガンチメグ	女	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、八頭 農業改良普及所
		バトジャルガル ツォグトサラ ン	男		
2003 (平成 15)	ブラジル	エリカ ナオミ カトウ	女	環境	県生活環境部
		ルシアナ ケラ	女	都市設計	県環境政策課、白兔設計事務 所、鳥取環境大学
	中国吉林省	李守祥 (リ シュショウ)	男	環境	県環境政策課、衛生研究所
		朴 晟 (ピャオ シュン)	男	商工行政	県経済交流課
	モンゴル中央県	ダシゼベグ チョルーンツェツ ェグ	女	農業	農業大学校、園芸試験場、鳥取 大学農学部
2004 (平成 16)	ブラジル	ジナー サユリ イワミズ	女	建築設計	鳥取環境大学
	モンゴル中央県	オンゴードイ ムンフトヤ	女	農業	農業大学校、園芸試験場
2005 (平成 17)	ブラジル	サンドラ アケミ ナリタ	女	報道	新日本海新聞社等
	モンゴル中央県	ウダバルバダム エルデネバト	男	農業	農業大学校、園芸試験場
2006 (平成 18)	ブラジル	エリキ フナバシ	男	食品流通	中井酒造株式会社、県市場開拓 監、県文化観光局
	モンゴル中央県	ゲンデンブレブ ガンバト	男	農業	農業大学校、園芸試験場
2007 (平成 19)	ブラジル	ミリアン ハルキ キノシタ	女	福祉保健	総合療育センター
	モンゴル中央県	バルジンヤム バトソーリ	男	農業	農業大学校、園芸試験場

2008 (平成 20)	ブラジル	マルガレッチ タエコ フカク サ	女	国際貿易	(株)さかいみなと貿易センタ ー
	モンゴル中央県	トゥグスオチル バヤルフー	女	農業	農業大学校
2009 (平成 21)	ブラジル	アレシャンドレ アラキ	男	放送関係	中海テレビ
	モンゴル中央県	ミヤグマル ダシドラム	女	農業	農業大学校

中国河北省技術研修生

年 度	氏 名	性別	研修内容	研修先
1992 (平成 4)	臧恩宝 (ズアン エンバオ)	男	自動車整備	倉吉高等技術専門校
1993 (平成 5)	何利華 (ホ リーホァ)	男	自動車整備	倉吉高等技術専門校
	王 軍 (ワン ジュン)	男		

中国河北省農林漁業研究者

年 度	氏 名	所 属	性別	研修内容	研修先
1988 (昭和 63)	殷録閣 (イン ルーコウ)	水産研究所	男	栽培漁業	栽培漁業試験場
	何建平 (ホー チンピン)	秦皇島市畜牧水産局	男		
1989 (平成元)	閻乃庚 (エン ダイコウ)	農林科学院	男	果樹栽培	果樹野菜試験場
	李光照 (リ グァンジャオ)		男		
1990 (平成 2)	焦長明 (チャオ チャンミン)	農林科学院	男	生物学	果樹野菜試験場
1991 (平成 3)	程增書 (チョン ソンシュ)	農林科学院	男	生物学	果樹野菜試験場
	高延庁 (ガオ イェンティン)	河北省林業局	男		
1992 (平成 4)	張麗潔 (ジャン リジェ)	農林科学院	女	果樹栽培	園芸試験場
	崔 洋 (ツイ ヤン)		男	生物学	鳥取大学
1993 (平成 5)	吐永清 (トゥ ヨンチン)	固安県蔬菜管理局	男	野菜栽培	園芸試験場
	曾憲坤 (ゾン シエヌクウヌ)	永清県林業局	男	砂地果樹	
1994 (平成 6)	高志傑 (ガオ ジジェ)	農林科学院	男	野菜栽培	園芸試験場
	張素芳 (チャン スーファン)		女	土壌肥料	農業試験場
1995 (平成 7)	齊秀菊 (チィ シウジュ)	農林科学院	女	野菜病害防除	園芸試験場
1996 (平成 8)	高林森 (ガオ リヌセヌ)	農林科学院等	男	甘柿栽培	園芸試験場
	高延庁 (ガオ イェンティン)		男	花き栽培	
	溢春秀 (イ チュヌシウ)		女		
	及 華 (ジィ ホァ)		女		
1997 (平成 9)	孫嵐国 (スヌ ラヌグオ)	農林科学院	男	果樹栽培	園芸試験場
1998 (平成 10)	楊建波 (ヤン ジェヌボ)	大名県林業局	男	果樹栽培	園芸試験場

1999 (平成 11)	姜玉生 (ジャン ユイション)	固安県蔬菜管理局	男	野菜栽培	園芸試験場
2000 (平成 12)	李克健 (リ コウチン)	曲陽県林業局	男	果樹栽培	園芸試験場
	王明秋 (ワン ミンシュウ)	農林科学院	男	野菜栽培	
2001 (平成 13)	馮樹亮 (フォン シュリアン)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場
2002 (平成 14)	鄭 礼 (チョン リー)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場
2003 (平成 15)	鄭 礼 (チョン リー)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場

中国河北省農業研修生・緑化研修生

年 度	区分	氏 名	性別	研修内容	研修先及び受入農家
1987 (昭和 62)	団長	邸濟民 (テイ ジーミン)	男	果樹栽培	東伯郡関金町 山本守夫氏
	副団長	王国華 (ワン グォホァ)	男	野菜栽培	倉吉市 河本増雄氏
	団員	高延斤 (ガオ イェンティン)	男	果樹栽培	東伯郡東伯町 河本茂氏
		張風栄 (ジャン フォンロン)	男	花き栽培	気高郡鹿野町 今本徹氏
1987 (昭和 62)	団員	王迎濤 (ワン インタオ)	男	果樹栽培	倉吉市 田中秀人氏
1988 (昭和 63)	団長	張連仁 (ジャン リェンレン)	男	果樹栽培	倉吉市 福井光隆氏
	副団長	韓振延 (ハン ジェンイェン)	男		東伯郡関金町 山本守夫氏
	団員	王 強 (ワン チァン)	男		東伯郡赤碕町 石賀昭一氏
		彭進友 (ボン ジンイェウ)	男		倉吉市 松本俊一氏
1989 (平成元)	団長	邢永オ (ジン ヨンツァイ)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡中山町 井上智光氏
	団員	梁義春 (リャン イーチュン)	男		農業大学校、西伯郡会見町 赤井利幸氏
		徐東端 (シュイ ドンドァン)	男	野菜栽培	農業大学校、倉吉市 上村富士雄氏
		蒋喜田 (ジャン シーチァン)	男		農業大学校、東伯郡大栄町 梅津良善氏
1990 (平成 2)	団長	王振一 (ワン ジェンイ)	男	果樹栽培	農業大学校、倉吉市 大野俊一氏
	団員	周延文 (ジョウ イァンウェン)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡北条町 石川孝平氏
		劉福辰 (リュウ フウチェン)	男	畜産	農業大学校、東伯郡東伯町 川本正一郎氏
1991 (平成 3)	団長	楊大宇 (ヤン ダユイ)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木初巳氏
	団員	張少飛 (シャ ン シャオフェイ)	男		農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏
		高林森 (ガオ リンセン)	男	イチゴ	農業大学校、気高郡青谷町 田中正人氏
		呉鉄園 (ゴ ティエユァン)	男	果樹 (機械)	農業大学校、八頭郡八東町 秋山宏樹氏
		席会民 (シィ ホォイミン)	男		農業大学校、八頭郡郡家町 小林洋吉氏
1992 (平成 4)	団長	高玉軍 (ガオ ユイジュン)	男	果樹栽培	農業大学校、米子市 前田貢氏
	団員	謝曉亮 (シェ シャオリアン)	男		農業大学校、西伯郡淀江町 綾木健一氏
		魏建国 (ウェイ ジェングォ)	男		農業大学校、西伯郡会見町 石塚誠一氏
		段丙武 (ドァン ピンウ)	男		農業大学校、西伯郡名和町 岩井宰氏
		胡英輝 (フウ インホァイ)	男	野菜栽培	農業大学校、日野郡溝口町 遠藤達也氏

1993 (平成 5)	団長	白韶雪(バイ シャオシュエ)	男		農業大学校、東伯郡東郷町 森田久好氏
	団員	丁振京(ティン ジェンジン)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡関金町 藤井一良氏
		魏建秋(ウェイ ジェンチウ)	男		農業大学校、東伯郡赤碓町 入江重吉氏
		李志強(リ ジチヤン)	男		酪農
		李躍進(リ ユエジン)	男	砂丘園芸	農業大学校、東伯郡北条町 枘田富裕氏
1994 (平成 6)	団長	張曉義(ジャン シアオイ)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏
	団員	王 忠(ワン ジョオン)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木茂氏
		陳 雪(チェン シュエ)	男		農業大学校、八頭郡佐治村 西尾明俊氏
		栄 新(ルウオン シン)	男		農業大学校、岩美郡福部村 山根徳之氏
		邵吉祥(シャオ ジシヤン)	男		農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏
1995 (平成 7)	団長	孫風国(ジュン クニクオ)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡大山町 堤嶋勇治氏
	団員	鮑紀剛(バオ チークァン)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡会見町 赤井剛毅氏
		張 威(チャン ウィ)	男	野菜栽培	農業大学校、西伯郡中山町 秋田実氏
		趙志軍(チャオ チージュン)	男	野菜栽培	農業大学校、米子市 福島康孝氏
		干海良(コ ハイリヤン)	男	畜産栽培	農業大学校、西伯郡名和町 谷永憲雄氏
1996 (平成 8)	団長	馬建秋(マー チェンチュウ)	男		農業大学校、東伯郡関金町 藤井一良氏
	団員	曹海峰(ツァオ ファンフェン)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡東伯町 岩本典行氏
		楊金昭(ヤン チンチャオ)	男		農業大学校、東伯郡東郷町 谷口憲昭氏
		崔増力(ツイ チェンリ)	男		野菜栽培
		馬国平(マー クォピン)	男	農業大学校、東伯郡大栄町 森本真樹男氏	
1997 (平成 9)	団長	劉 偉(リュウ ウェ)	男		農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏
	団員	張孟傑(ハン モンジェ)	男	果樹栽培	農業大学校、八頭郡八東町 木原剛嗣氏
		祈建増(チイ ジェンゾン)	男		農業大学校、鳥取市 石井一久氏
		姚聖軍(ヤオ ションジュン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏
		張加国(ジャン ジアグオ)	男		甘柿
1998 (平成 10)	団長	張志安(ジャン チアアン)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡淀江町 清水綾子氏
	団員	韓 偉(ハン ウェイ)	男		農業大学校、西伯郡名和町 米沢誠一氏
		封志平(フウ チピン)	男	甘柿	農業大学校、西伯郡会見町 石塚誠一氏
		丁雪京(ディン シュエジン)	男	野菜栽培	農業大学校、境港市 渡部武治氏
		趙利波(チャオ リーブウ)	男		農業大学校、西伯郡中山町 秋田実氏
	崔良龍(ツイ リヤンロン)	男	農業大学校、日野郡日南町 池田尚弘氏		
1999 (平成 11)	団長	呉炳奇(ウー ジュンウエン)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡東郷町 谷口憲昭氏
	団員	高俊文(カオ ジュンウエン)	男		農業大学校、東伯郡赤碓町 田中哲馬氏
			尼群周(ニー チュンチョウ)	男	甘柿

1999 (平成 11)	団員	武 斌(ウー ピン)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡大栄町 梅津博文氏
		王海東(ワン ハイドン)	男		農業大学校、東伯郡東伯町 小前二郎氏
		蔣丙文(ジャン ピンウエン)	男		農業大学校、倉吉市 大野俊一氏
2000 (平成 12)	団長	魏建国(ウェイ ジェンゲー)	男	果樹栽培	農業大学校、八頭郡八東町 秋山宏樹氏
	団員	馬海国(マ ハイグー)	男		農業大学校、気高郡青谷町 長谷川義博氏
		楊端剛(ヤン ルイガン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷廣太郎氏
		魯 明(ルー ミン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡郡家町 毛利克征氏
2002 (平成 14)	団長	王春龍(ワン チュンロン)	男	林業	鳥取県山林樹苗協同組合、林業試験場
	団員	肖 鋒(シアウ フォン)	男		
		于小軍(ウィ シアオジュン)	男		
		王鉄峰(ワン ティエフォン)	男	畜産	鳥取県畜産振興協会鳥取放牧場河合谷分場、畜産試験場
龔志勇(グワン チーユン)	男				
2003 (平成 15)	団員	楊耀耀(ヤン ヤオホイ)	男	林業	鳥取県森林組合連合会、鳥取森林管理署、鳥取県山林樹苗協同組合
		呉 濤(ウー タオ)	男		
		柳全芬(リュ チュワンフェン)	男	畜産	倉吉家畜保健衛生所、鳥取畜産農業協同組合、大山乳業農業共同組合
		高衆迎(カオ チュンイン)	男		

中国黒竜江省農業研修生

年 度	区分	氏 名	性別	研修内容	研修先及び受入農家
1995 (平成 7)	団長	梁桂誠(リャン クイチョン)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木茂氏
	団員	牛明君(ニウ ミンチュン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏
		李光印(リ コワンイン)	男	稲作・果樹	農業大学校、八頭郡佐治村 西尾明敏氏

韓国江原道行政実務研修生

年 度	氏 名	性別	研修内容	研修先
1993 (平成 5)	崔炯奎(チェ ヒョンギョ)	男	地方行政	県市町村振興課
1994 (平成 6)	金星鎬(キム ソンホ)	男	地方行政	県市町村振興課
1995 (平成 7)	李昇燮(イ スンソップ)	男	行政管理	県職員課
1996 (平成 8)	朴根泳(パク グンニョン)	男	地方行政	県市町村振興課
1997 (平成 9)	鄭官容(チョン グァンヨン)	男	行政一般	県環境政策課
1998 (平成 10)	李搦烈(イ グンニョル)	男	文化行政	県教育委員会文化課
1999 (平成 11)	白昶錫(ベク チャンソク)	男	行政一般	県市町村振興課
2000 (平成 12)	安鏞辰(アン ヨンジン)	男	農業行政	県生産流通課
2001 (平成 13)	鄭丞弼(チョン スンピル)	男	行政一般	県市町村振興課

2002(平成14)	金光善(キム グァンソン)	男	農林行政	県農林水産部
2003(平成15)	盧希宣(ノ ヒソン)	女	農林行政	県農林水産部
2004(平成16)	姜熙星(カン ヒソン)	男	行政一般	県総務部
2008(平成20)	崔豪洵(チェ ホスン)	男	行政一般	県商工労働部
2009(平成21)	李美静(イ ミジョン)	女	行政一般	県教育委員会

自治体職員協力交流研修員

年度	国籍	氏名	性別	研修内容	研修先
1996(平成8)	ベトナム	グエン キム フォン	男	商工行政	県商政課
1997(平成9)	ベトナム	レ バン クイ	男	商工行政	県商政課
1998(平成10)	韓国(江原道)	金東旭(キム ドンウク)	男	観光行政	県観光課
	マレーシア	モハット ノール ハシム	男	行政一般	県国際課
1999(平成11)	韓国(江原道)	黄貞淑(ファン ジョンスク)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国(吉林省)	王 霞(ワン シャア)	女	環境	県衛生研究所
2000(平成12)	韓国(江原道)	全珍杓(チョン ジンピョ)	男	福祉行政	県福祉保健課
	中国(吉林省)	趙 青(ジャオ チン)	女	環境	県衛生研究所
2001(平成13)	韓国(江原道)	金美慶(キム ミギョン)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国(吉林省)	王立群(ワン リチュイン)	男	文化行政	県国民文化祭推進局
2002(平成14)	韓国(江原道)	林泰虎(イム テホ)	男	福祉行政	県福祉保健課
	中国(吉林省)	王宏偉(ワン ホンウェイ)	男	文化行政	県国民文化祭推進局
2003(平成15)	韓国(江原道)	元鴻植(ウォン ホンシク)	男	福祉行政	県福祉保健課
		南鎮宇(ナム ジンウ)	男	環境行政	県生活環境部
2004(平成16)	韓国(江原道)	姜炯希(カン ギョンヒ)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国(吉林省)	徐 波(シュウ ボウ)	男	商工行政	県経済交流課
2005(平成17)	中国(吉林省)	李艳苹(リ イェンピン)	女	商工行政	県経済交流課
	中国(河北省)	張 碩(チャン シュオ)	男	環境行政	県環境政策課
2006(平成18)	中国(吉林省)	衣 飛(イ フェイ)	女	商工行政	県産業開発課
2007(平成19)	中国(吉林省)	杜春紅(ドゥ チュンホン)	女	商工行政	県産業開発課
2008(平成20)	中国(吉林省)	郝 軍(ハオ ジュン)	男	商工行政	県産業振興戦略総室
	韓国(江原道)	朴ブルン(パク ブルン)	女	環境政策	県生活環境部
2009(平成21)	中国(吉林省)	周 婧怡(ジョウ ジンイ)	女	商工行政	県経済通商総室

外務省長期青年招聘事業研修員

年 度	国 籍	氏 名	性別	研修内容	研修先
1995 (平成 7)	モンゴル	ヤンザン セレンゲ	女	商工行政	県商工振興課
1996 (平成 8)	ミャンマー	ミン イン セイン	女	商工行政	県商政課
1998 (平成 10)	ミャンマー	コ コ ナイン	男	商工行政	県商政課
1999 (平成 11)	ベトナム	グエン タイ ピン	男	文化振興	県文化振興課
	カンボジア	サーン ビルナー	男	商工行政	県商政課
2000 (平成 12)	ミャンマー	ナン キン ヌ	女	文化振興	県文化振興課

国際協力機構 (J I C A) 自治体連携研修員

年 度	国 籍	氏 名	性別	研修内容	研修先
1999 (平成 11)	モンゴル (中央県)	バルジンニヤム デルゲルツォグト	女	循環器科医療	県立中央病院
2000 (平成 12)	モンゴル (中央県)	イシ オユンチメグ	女	内科・産婦人科医療	県立中央病院
2001 (平成 13)	モンゴル (中央県)	ジンベー ビンバジャブ	女	脳神経外科・脳神経 内科医療	県立中央病院
2004 (平成 16)	モンゴル (中央県)	スハー オユンツェツェグ	女	産婦人科医療	県立中央病院

ブラジル県費留学生

年 度	氏 名	出身市町村 (旧 名)	性別	大学等	学 部	専 攻
1965 (昭和 40)	山添 勝子	若桜町	女	鳥取大学	教育学部	
1966 (昭和 41)	中井 佐代子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	児童心理
1967 (昭和 42)	中井 佐代子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	児童心理
1968 (昭和 43)	橋浦 晴江	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	児童教育
1969 (昭和 44)	橋浦 晴江	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	児童教育
	山添 美智子	若桜町	女	鳥取大学	教育学部	農村社会
1970 (昭和 45)	鈴木 陽子	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	建築
	伊木 信子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	体育
1971 (昭和 46)	成田 敬	米子市	男	鳥取大学	教育学部	産業概論
	明穂 薫	琴浦町 (東伯町)	男	鳥取大学	工学部	地域計画
1973 (昭和 48)	加藤 ルイザ	北栄町	女	鳥取大学	教育学部	教育制度

1973 (昭和 48)	加藤 輝子 ネリー	(北条町)	女	鳥取大学	教育学部	障害児教育
1974 (昭和 49)	平 ネウザ	日野町	女	鳥取大学	教育学部	国際貿易
	松下 美智子 エレーナ	八頭町 (船岡町)	女	鳥取大学	教育学部	社会福祉
1975 (昭和 50)	徳尾 リリア 淑子	日南町	女	鳥取大学	医学部	労働医学
	加藤 早苗 アンナ	北栄町 (大栄町)	女	鳥取大学	教育学部	日本語
1976 (昭和 51)	伊藤 初美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	工学部	建築
1977 (昭和 52)	伊藤 初美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	工学部	建築
	渡部 輝子	境港市	女	鳥取大学	教育学部	日本文化・教育制度
1978 (昭和 53)	竹内 綾子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	体育
	前原 一禮	米子市	男	鳥取大学	農学部	農業経営
1979 (昭和 54)	平木 育子	米子市	女	鳥取大学	医学部	小児科
	岩本 増典	三朝町	男	鳥取大学	医学部	婦人科
1980 (昭和 55)	高見 ロウルデス 早苗	倉吉市	女	鳥取大学	医学部	細菌学
	菊留 暁美	三朝町	女	鳥取大学	教育学部	心理学
1981 (昭和 56)	伊藤 清美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	教育学部	栄養学
	山下 八重子	三朝町	女	鳥取大学	工学部	地域計画
1982 (昭和 57)	平木 悦子	米子市	女	鳥取大学	医学部	産婦人科
	孝美 アメリア 美知江	倉吉市	女	鳥取大学	工学部	電機計算機
1983 (昭和 58)	霜田 美夕起	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	医学部	難聴治療
	橋浦 富代	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	地理学、自然科学
1984 (昭和 59)	岩本 デニゼ	三朝町	女	鳥取大学	工学部	都市計画
	岩本 エリーゼ 明己		女	鳥取大学	医学部	歯科
1985 (昭和 60)	加藤 五月 デイジー	鳥取市	女	鳥取大学	教育学部	現代日本語基礎教授法
	糸田 クリスティーナ 愛子	若桜町	女	鳥取大学	医学部	ウイルス学
1986 (昭和 61)	関山 理香 ジュリエッタ	鳥取市	女	鳥取大学	医学部	内科学
	長田 デルザ	倉吉市	女	鳥取大学	医学部	衛生産科婦人科学

1987 (昭和 62)	河崎 幸子 クレミルダ	倉吉市	女	鳥取大学	工学部	コンピューター
	小村 真澄 マリーザ	伯耆町 (岸本町)	女	鳥取大学	工学部	コンピューター
1988 (昭和 63)	武田 さつき ジュリア	伯耆町 (溝口町)	女	鳥取大学	教育学部	デザイン
1989 (平成元)	川崎 ミチエ クリスティーナ	琴浦町 (東伯町)	女	鳥取大学	工学部	土木材料学
1990 (平成 2)	吉田 美幸 ミリアン	鳥取市 (福部村)	女	米子工業高等 専門学校	建築学科	日本の建築技術等
1991 (平成 3)	本橋 敏江 クリスティーナ	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	知能情報工学
1992 (平成 4)	清水 ラケル	鳥取市	女	鳥取大学	教養部	保健体育学
1993 (平成 5)	羽島 月江	米子市	女	米子工業高等 専門学校	建築学科	デザイン
1994 (平成 6)	淵田 クリスティーナ あゆみ	鳥取市	女	鳥取大学	教養部	日本語
1995 (平成 7)	清水 デニーゼ	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	地質水質学
1996 (平成 8)	西尾 エリーザ 真理	鳥取市 (河原町)	女	鳥取大学	工学部	品質管理
1999 (平成 11)	細田 アダウベルト 英二	伯耆町 (溝口町)	男	鳥取大学	地域教育学部	情報処理
2000 (平成 12)	大橋 ルシア みちこ	智頭町	女	鳥取大学	農学部	水質浄化
2001 (平成 13)	井上 友子 マルガリータ	米子市	女	鳥取大学	農学部	農業経営
2003 (平成 15)	カリーナ メグミ ニシオ	鳥取市 (河原町)	女	鳥取大学	農学部	食品衛生・畜産物 加工
2004 (平成 16)	ウゴ ヤマシロ	八頭町 (船岡町)	男	鳥取大学	医学部	内科学
2005 (平成 17)	スエナガ アユミ	八頭町 (郡家町)	女	鳥取環境大学	環境政策学科	環境政策
2006 (平成 18)	ルセリア ユミ イヌマル	境港市	女	鳥取大学	地域学部	幼児教育
2008 (平成 20)	ファビオ ユウジ ニシサカ		男	鳥取大学	工学部	機械工学
2009 (平成 21)	カチア ルリ モリオカ	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	工業技術

2009年度（平成21年度）
鳥取県海外技術研修員等
研修報告書

2010年（平成22年）3月

発行 鳥取県文化観光局交流推進課
〒680-8570
鳥取市東町一丁目220
電話0857-26-7842